



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

国立大学法人

群馬大学概要

平成26年度版

National University Corporation

Gunma University 2014



群馬大学は、上毛三山に抱かれた明るく豊かな自然風土の下、昭和二十四年に新制の国立大学として誕生した。それ以後、北関東を代表する総合大学として、有為な人材を育成するとともに、真理と平和を希求し、深遠な学理とその応用を考究し、世界の繁栄と人類の福祉に貢献することを目的として、その社会的使命を果たしてきた。

二十世紀後半は、科学技術の飛躍的発展と経済の繁栄に象徴される時代であり、同時に、人類の生存と繁栄の根幹に関わる諸問題が地球的規模において顕在化した時代でもあった。この中にあって、本学は、教育学、社会情報学、医学、工学の各分野における教育及び研究を通して、真摯に時代の要請に応えてきた。

ここにおいて、群馬大学は、二十一世紀を多面的かつ総合的に展望し、地球規模の多様なニーズに応えるため、新しい時代の教育及び研究の担い手として、次の基本理念を宣言する。

基本理念

1. 新しい困難な諸課題に意欲的、創造的に取り組むことができ、幅広い国際的視野を備え、かつ人間の尊厳の理念に立脚して社会で活躍できる人材を育成する。
2. 教育及び研究活動を世界的水準に高めるため、国内外の教育研究機関と連携し、世界の英知と科学・技術の粋を集め、常に切磋琢磨し、最先端の創造的な学術研究を推進する。
3. 教育及び研究の一層の活性化と個性化を実現するため、大学構成員の自主性、自律性を尊重し、学問の自由とその制度的保障である大学の自治を確立するとともに、それに対する大学としての厳しい自己責任を認識し、開かれた大学として不断の意識改革に務める。

目 標

1. 教育の目標

- (1) 学生の自主的で創造的な勉学を促進する学修環境を整えるとともに、学生が本来持っている潜在的な能力とエネルギーを引き出すため最大限の支援を行う。
- (2) 教養教育においては、その重要性を認識し、全学的な協力体制の下、専門教育との連携を図りながら、幅広く深い教養、総合的な判断力、そして自然との共生を基盤とした豊かな人間性を涵養する。
- (3) 学部専門教育においては、教養教育との融合を図りつつ、各専門分野の最新の知見及び技術を修得しうる基礎的能力を育成し、豊かな知性と感性及び広い視野を持ち、学士力に裏打ちされた、社会から信頼される人材を養成する。
- (4) 大学院教育においては、高い倫理感と豊かな学識に立脚し、学部専門教育との関連を視野において、実践力を有する高度専門職業人及び創造的能力を備えた研究者を養成する。

2. 研究の目標

- (1) 専門分野において独創的な研究を展開するとともに、特に重点研究領域において国内外の大学・研究機関と連携して先端的研究を推進し、国際的な研究・人材育成の拠点を形成する。
- (2) 基礎的研究と応用的、実践的研究との融合を図り

産業界や自治体等との共同研究・共同事業を推進し、その成果を広く社会に還元する。

3. 社会貢献等の目標

- (1) 地域の知の拠点として学内外の関係機関と連携した活動を通じて、地域の文化及び伝統を育み、豊かな地域社会を創造する活動を行うとともに、知の地域社会への還元を推進し、産業の発展に貢献する。
- (2) 地域医療を担う中核として医療福祉の向上にあたるとともに、地域住民の多様な学習意欲や技術開発ニーズに応え、地域社会の活性化に貢献する。
- (3) 国際的視野の下で教育研究を充実する観点から、留学生の受け入れ及び本学学生の海外派遣を推進するとともに、海外の大学等との学術交流や教職員の国際交流を進める。

4. 大学運営の目標

- (1) 学長のリーダーシップの下で経営戦略を明確にし、大学構成員の能力を引き出し、自主性、自律性を持つて効率的な大学運営に当たる。
- (2) 大学内での情報共有化と社会に対する大学情報の積極的な発信に努め、学内外への説明責任を果たす。
- (3) 不断の点検・評価と改革を推進し、大学の活力を維持発展させるとともに、大学の諸活動の質的向上を図る。

(平成22年4月1日)





群馬大学荒牧地区

目次

理念及び目標	表紙裏面～1
目次	3
学長からのメッセージ	4～5
〈組織・運営〉	
歴代学長	6
沿革	6～7
管理運営組織	8
事務組織	8
教育・研究組織	9
役員・副学長・学長特別補佐・顧問・特任教授	10
経営協議会・教育研究評議会	10
学部長等	11
〈大学・大学院等〉	
教育学部	12～13
社会情報学部	14
医学部	15～16
医学部附属病院	17
理工学部	18～19
生体調節研究所	20
総合情報メディアセンター	20
大学教育・学生支援機構	21
研究・産学連携戦略推進機構	22
重粒子線医学推進機構	23
学内共同教育研究施設等	24
共同研究拠点等	24
〈特色ある研究・教育・社会貢献活動〉	
主な教育研究補助金採択状況	25
平成25年度地域貢献事業一覧	26
公開講座・開放講座〔平成26年度〕	27
〈学生状況〉	
学生の数	28～29
入学志願状況等	30～31
卒業・修了者数・学位授与者数	32
卒業後の状況	33
〈国際交流〉	
国際交流協定	34～35
外国人留学生数	36
〈財務状況等〉	
平成26年度収入・支出予算額	37
研究費等受入状況	38
職員の数	39
土地・建物面積	39
〈キャンパス〉	
学部等所在地	40
学部等所在地分布図	41
建物配置図	42～45
交通アクセス	46～48
学生歌	49



学長からのメッセージ

群馬大学長 高田 邦昭

Takata, Kuniaki

群馬大学は、伝統を活かし、地域と共に、知的な創造を通じて世界の最先端へとチャレンジし、21世紀を切り拓くことを目指しています。昭和24年に制定された徽章には上毛三山がデザインされています。上毛三山の中で大学キャンパスから一番近い赤城山は、広い裾野を持っています。群馬大学もこの赤城山のように広い知の基盤を形成し、その基盤の上にリージョナルからグローバルまで、様々なレベルで知の峰を創り、世の中に発信していく大学になって行きたいと思っています。

群馬大学を構成する教育学部、理工学部、医学部、社会情報学部のルーツはそれぞれ、明治6年に開所した小学校教員伝習所、大正4年設置の桐生高等染織学校、昭和18年に開校した前橋医学専門学校、平成5年設置の社会情報学部まで辿ることができます。明治、大正、昭和、平成という近代日本それぞれの時代の要請に応える形で生まれ、変革しながら高等教育機関として地域の知の基盤を作ってきました。

現在の群馬大学は、このような歴史の上に培われた伝統をもとに、新たな展開を図っています。現代社会の変化に迅速かつ的確に対応するため、平成26年度には大学運営体制の変革を行いました。学長を中心とする役員会は、中長期的なビジョンのもとに、教員ポストの配分、教育研究スペースの配分、予算の配分を行います。そしてこれらを大学運営に確実に反映させる仕組みとして、新たに執行役員会議を設置しました。この会議は、学長、理事に加えてメンバーに学部長や研究科長等を執行役員として指名し、学部等現場レベルでの業務に大学全体の運営を視野に入れながら機動的に行うことを目指します。さらに、企画戦略会議では、学長の下で大学全体にわたる改革などについて分析と企画を行うこととしました。

このような組織体制のもとで、大学の最も重要な資源である教員ポストについては、従来の部局に定員が張り付いていた概念を一新した教員組織の一元化（学術研究院の設置）を行いました。すなわち、総ての教員ポストはこの仕切りのない単一の組織である学術研究院に移ります。個々の教員は、この一元化された学術研究院に属しここから学部、大学院、研究所、機構、センター等の大学内の様々な組織に出かけていって教育、研究、社会貢献などの大学業務を行います。このような仕組みは、学部、大学院等の組織に定員が張り付いておらず、大学全体を見渡した上での人的資源の最適な配置が可能となることが大きな特徴です。文部科学省によるミッションの再定義等を受け、国立大学改革プランのもとで大学改革を行うにあたり、学内の状況を常にモニターしながら柔軟かつ迅速な人員配置を行い、大学全体として最大の成果をあげることを目指したものです。

平成26年度には未来先端研究機構を設置し、重粒子線治療を核とした統合腫瘍学と、内分泌代謝・シグナル学の二つの分野の振興を図ります。海外の研究者も招き、真にグローバルな発信拠点を目指しています。これを契機として、生体調節研究所と医学系研究科の強みがさらに強化されることが期待されます。保健学研究科では、以前から推進してきたチーム医療の普及と研究活動が世界保健機関（WHO）に認められ、平成25年に群馬大学はこの分野では国内唯一のWHO Collaborating Centreとして指定を受けました。理工学府では、理工学への改組の理念を実践するとともに、医理工連携をはじめとして次の時代のテクノロジーの開発とそれを担う人材養成を行います。医学部附属病院は地域の医療拠点であるとともに、臨床研究中核病院として医療イノベーションを先導していきます。教育学部は、少子化の中で地域の教員のリーダーを養成するために教職大学院の充実と修士課程の改革を進めています。社会情報学部は、社会の大きな変革に対応するための改革に向けて動き出しています。

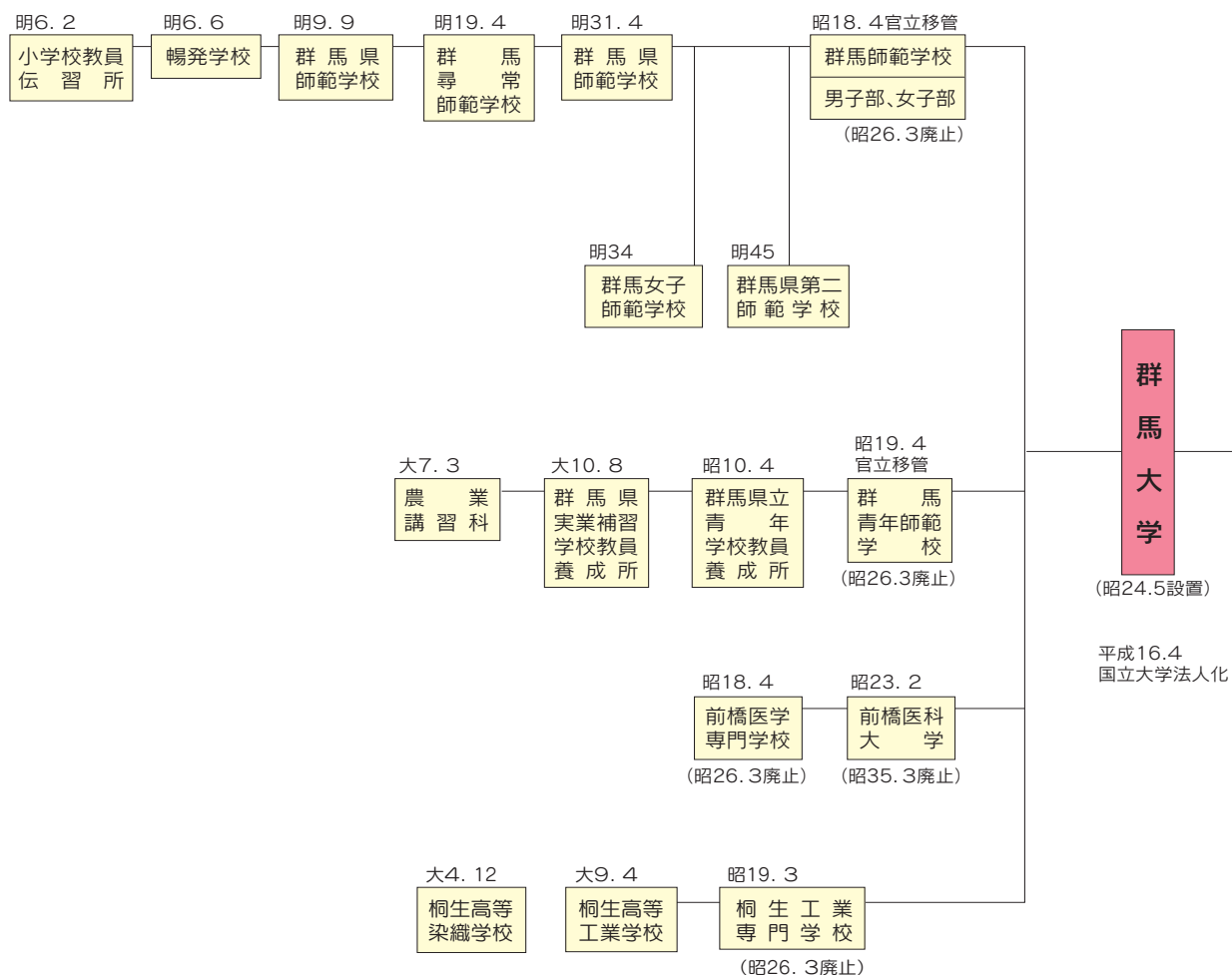
群馬県と連携して推進している重粒子線がん治療プロジェクトでは、治療開始以来累計で1000名を超す患者さんを治療しました。人材養成では、博士課程教育リーディングプログラム「重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム」を行ってきました。さらに、平成25年の「群馬がん治療技術地域活性化総合特区」認定を受けて産学連携も進んでいます。

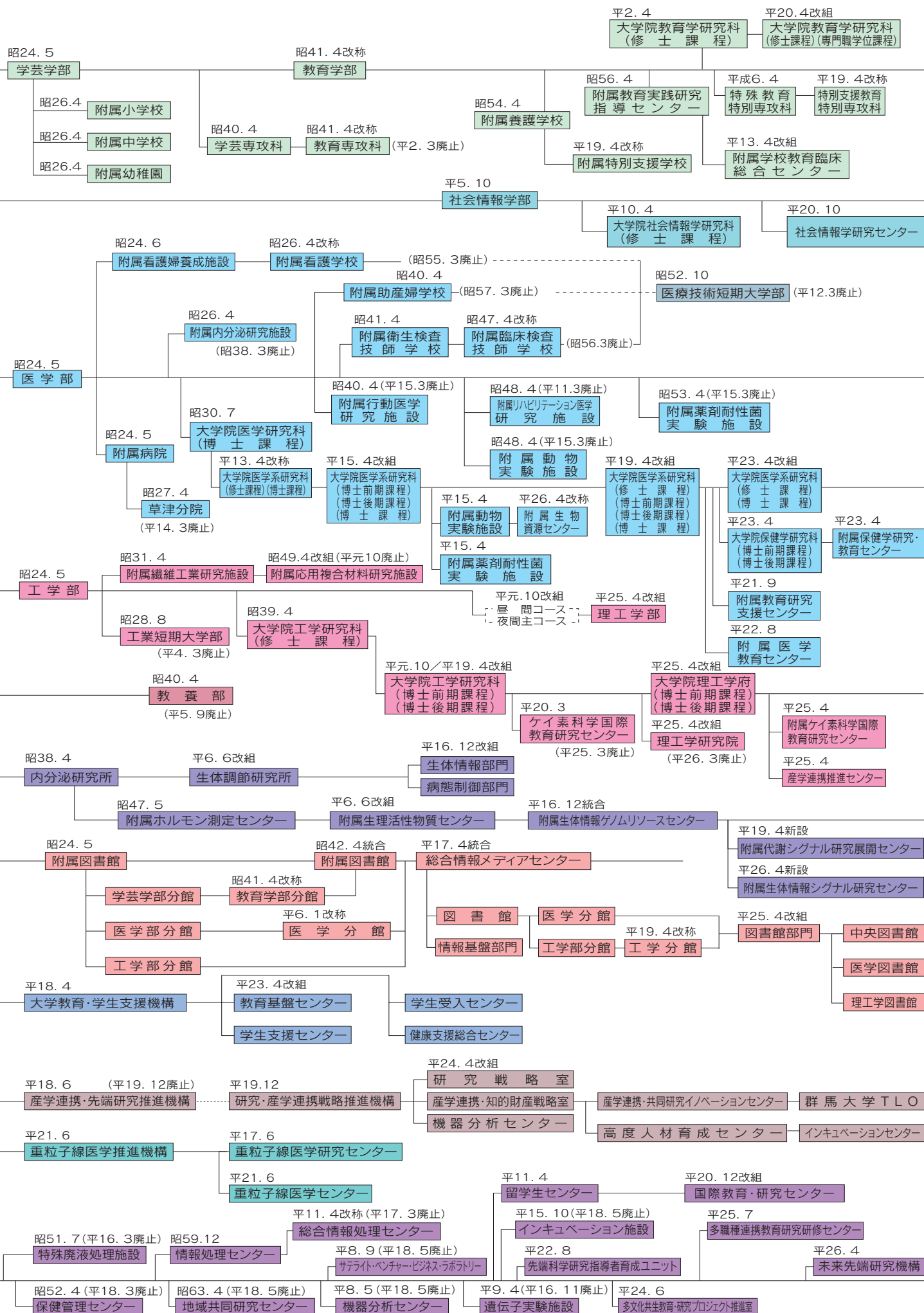
グローバル化の本質は、地域が全世界と直結していることです。このような時代に活躍する人材の基盤を形成するための新しい科目として「学びのリテラシー」の導入、英語教育の改革、留学支援などを推進しています。さらに、リーダー養成のためのグローバル・フロンティア・リーダー（GFL）育成コースの開設など、群馬大学は常に自己を見つめ直しながら改革を行い発展を図って行きます。

歴代学長

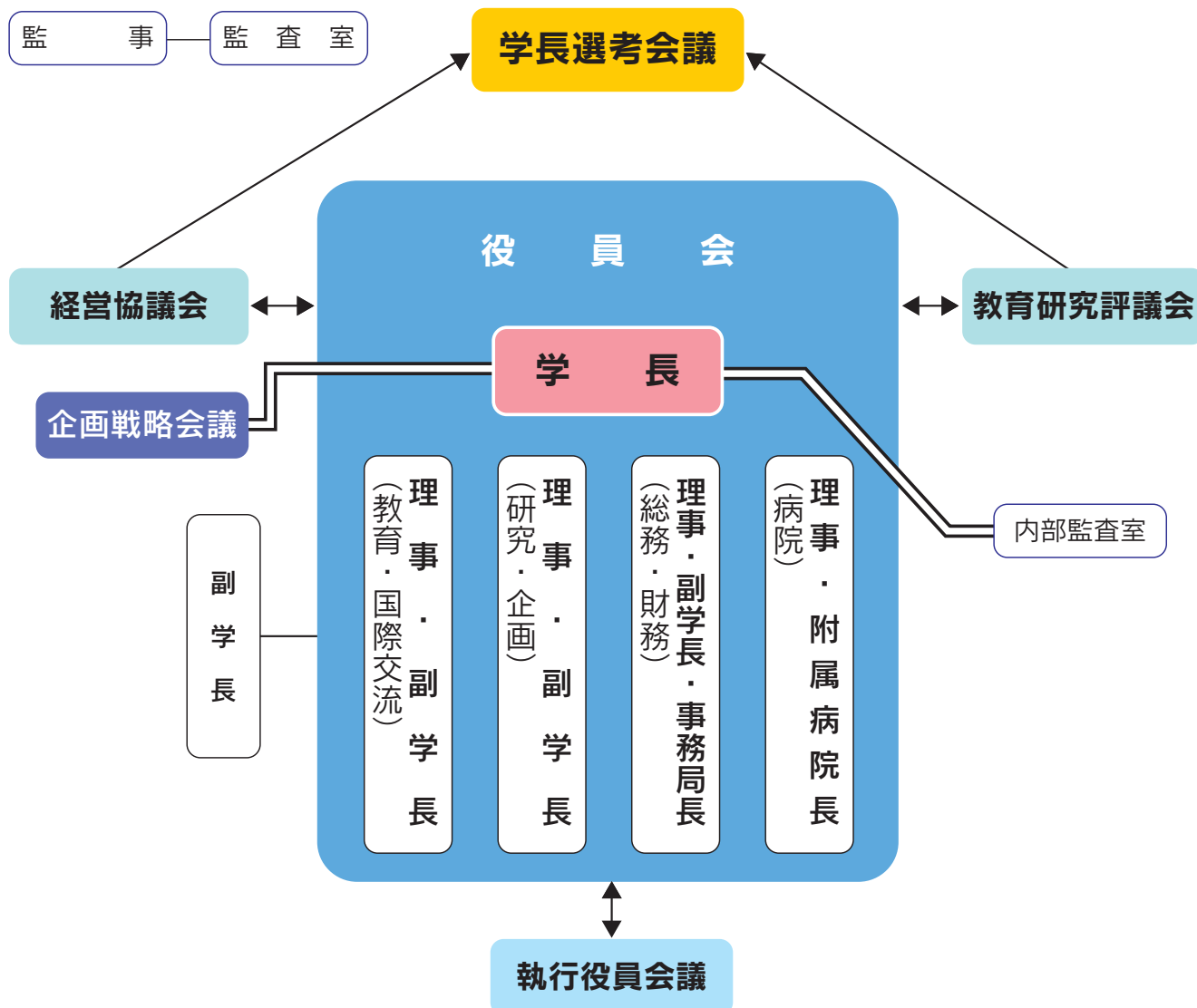
代数	氏名	在任期間
初代	西成甫	昭和24. 5.31 ~ 昭和36. 6.20
(事務取扱)	相葉伸	// 36. 6.21 ~ // 36. 7.13
第2代	長谷川秀治	// 36. 7.14 ~ // 42. 7.13
(事務取扱)	柴田勝博	// 42. 7.14 ~ // 42. 8.31
第3代	秋月康夫	// 42. 9. 1 ~ // 46. 8.31
(事務取扱)	町田周郎	// 46. 9. 1 ~ // 46.12.15
第4代	石原恵三	// 46.12.16 ~ // 50.12.15
第5代	畑敏雄	// 50.12.16 ~ // 56.12.15
第6代	小野周	// 56.12.16 ~ // 60.12.15
第7代	前川正	// 60.12.16 ~ 平成 3.12.15
第8代	石川英一	平成 3.12.16 ~ // 9.12.15
第9代	赤岩英夫	// 9.12.16 ~ // 15.12.15
第10代	鈴木守	// 15.12.16 ~ // 16. 3.31
(国立大学法人 群馬大学長)	鈴木守	// 16. 4. 1 ~ // 21. 3.31
第11代	高田邦昭	// 21. 4. 1 ~ 現在

沿革

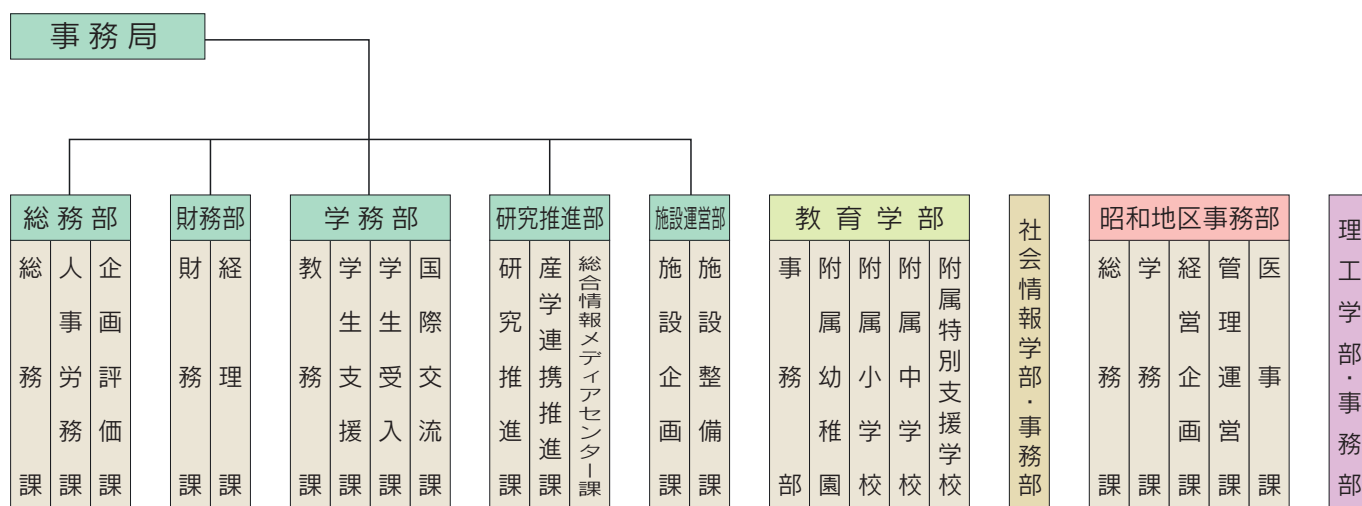




管理運営組織

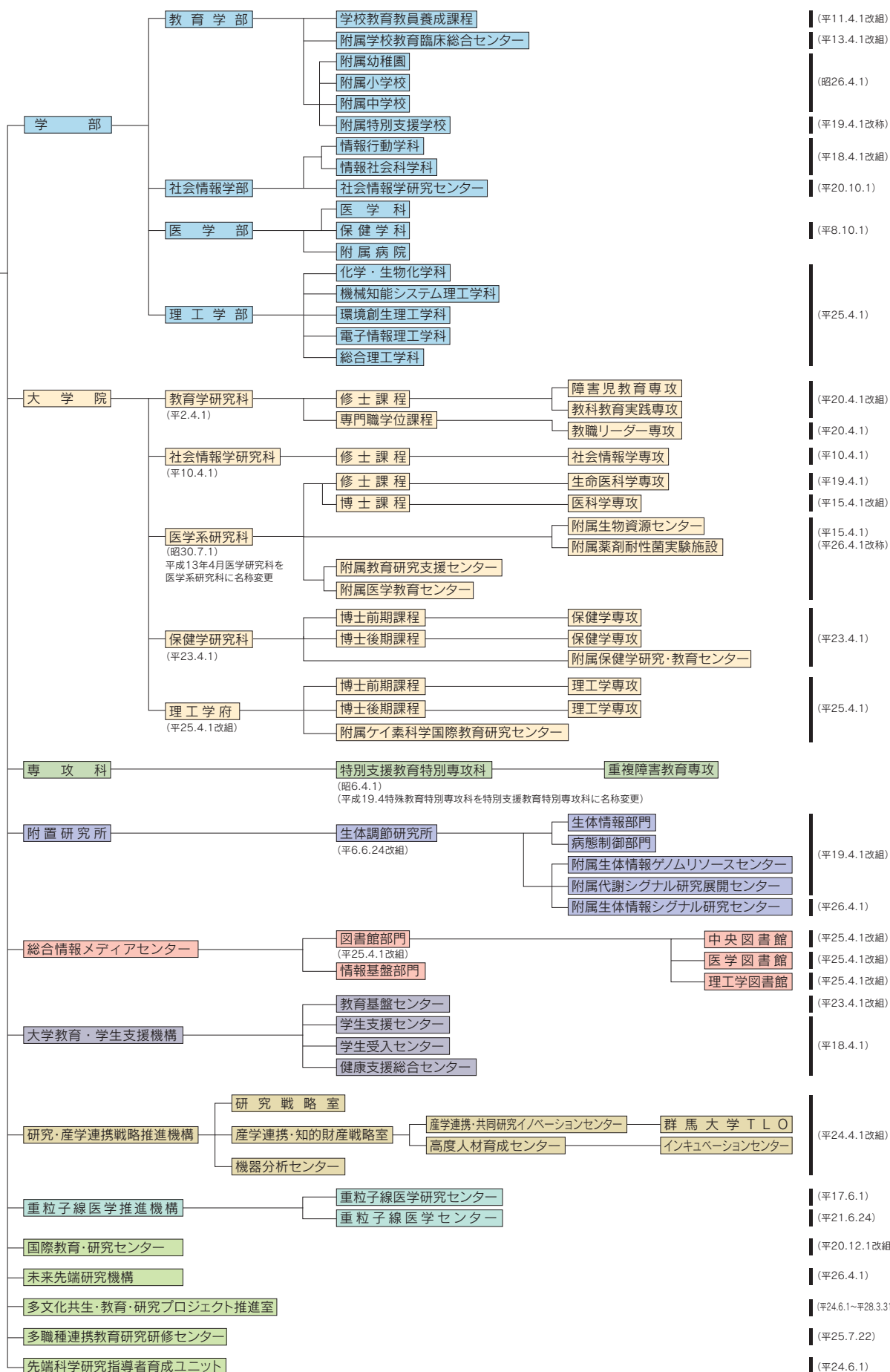


事務組織



教育・研究組織

群馬大学
(昭24.5設置)
平成16.4
国立大学法人化



組織・運営

役員・副学長・学長特別補佐・顧問・特任教授

平成26年4月1日現在

役 員	
学 長	高田 邦昭
理事（教育・国際交流担当）	石川 治
理事（研究・企画担当）	平塚 浩士
理事（総務・財務担当）・事務局長	井手 孝行
理事（病院担当）・附属病院長	野島 美久
監事	抱井 六郎
監事（非常勤）	森田 均

副 学 長			
石川 治	平塚 浩士	井手 孝行	小池 啓一
末松美知子	竹内 利行	土橋 敏明	

顧 問（非常勤）	
元群馬県商工会議所連合会会長	金子 才十郎
元群馬大学長（第9代）	赤岩 英夫
元群馬大学長（第10代）	鈴木 守

特 任 教 授（非常勤）	
竹内 利行	

執行役員会議	
学 長	高田 邦昭
理事（教育・国際交流担当）・副学長	石川 治
理事（研究・企画担当）・副学長	平塚 浩士
理事（総務・財務担当）・事務局長・副学長	井手 孝行
理事（病院）・附属病院長	野島 美久
執行役員 教育学部長	豊泉 周治
執行役員 社会情報学部長	森谷 健
執行役員 医学系研究科長	和泉 孝志
執行役員 保健学研究科長	渡邊 秀臣
執行役員 理工学府長	篠塚 和夫
執行役員 生体調節研究所長	岡島 史和
執行役員 総合情報メディアセンター長	末松 美知子

経営協議会・教育研究評議会

平成26年4月1日現在

経営協議会			
1. 議長	高田 邦昭	学長	
2. 学外委員	石堂 正信	公益財団法人交通協力会理事	
	郷 通子	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構理事	
	茂原 璋男	群馬県副知事	
	曾我 孝之	前橋商工会議所会頭	
	高橋 康三	株式会社上毛新聞社相談役	
	林 正和	株式会社日本取引所グループ取締役会議長	
	福水 健文	日本アルコール産業株式会社代表取締役副社長	
	四方 浩	株式会社群馬銀行代表取締役会長	
3. 学内委員	石川 治	理事（教育・国際交流担当）・副学長	
	平塚 浩士	理事（研究・企画担当）・副学長	
	井手 孝行	理事（総務・財務担当）・副学長・事務局長	
	野島 美久	理事（病院担当）・附属病院長	
	竹内 利行	特任教授・副学長	

教育研究評議会		
1. 議長	高田 邦昭	学長
2. 評議員	石川 治	理事（教育・国際交流担当）
	平塚 浩士	理事（研究・企画担当）
	井手 孝行	理事（総務・財務担当）・事務局長
	野島 美久	理事（病院担当）・附属病院長
	豊泉 周治	教育学部長
	森谷 健	社会情報学部長
	和泉 孝志	医学系研究科長
	渡邊 秀臣	保健学研究科長
	篠塚 和夫	理工学府長
	岡島 史和	生体調節研究所長
	末松 美知子	総合情報メディアセンター長
	齋藤 周	教育学部教授
	富山 慶典	社会情報学部教授
	峯岸 敬	医学系研究科教授
	村上 博和	保健学研究科教授
	花泉 修	理工学府教授
	泉 哲郎	生体調節研究所教授

監査室長（心得）	桐 生 賢 一
事務局	
事務局長・副学長	井 手 孝 行
総務部長	下敷領 強
総務課長	木 村 守 平
人事労務課長	青 木 敦 弘
企画評価課長	大 川 雄 司
財務部長	堀 内 賢 司
財務課長	二 瓶 稔 之
経理課長	今 泉 正 明
学務部長	道 見 明 彦
教務課長	八 木 雄一郎
学生支援課長	戸 澤 勲
学生受入課長	中 村 伸 彦
国際交流課長	関 充
研究推進部長	松 村 仁
研究推進課長	縣 猛 男
産学連携推進課長	早 川 知 宏
総合情報メディアセンター課長	矢 島 正 勝
施設運営部長	佐々木 力
施設企画課長	村 居 治 彦
施設整備課長	中 村 貴 行
総合情報メディアセンター	
センター長（図書館部門長）	末 松 美知子
大学教育・学生支援機構	
機構長	石 川 治
副機構長	吉 田 享
教育基盤センター長	石 川 治
学生支援センター長	石 川 治
学生受入センター長	石 川 治
健康支援総合センター長	石 川 治
研究・産学連携戦略推進機構	
機構長	平 塚 浩 士
副機構長	板 橋 英 之
研究戦略室長	平 塚 浩 士
産学連携・知的財産戦略室長	平 塚 浩 士
産学連携・共同研究イノベーションセンター長	花 泉 修
群馬大学TLO長	大 澤 隆 男
高度人材育成センター長	粕 谷 健 一
インキュベーションセンター長	粕 谷 健 一
機器分析センター長	若 松 馨
重粒子線医学推進機構	
機構長	平 塚 浩 士
重粒子線医学研究センター長	中 野 隆 史
重粒子線医学センター長	野 島 美 久
国際教育・研究センター	
センター長	土 橋 敏 明
多文化共生教育・研究プロジェクト推進室	
室長	石 川 治
多職種連携教育研究研修センター	
センター長	渡 邊 秀 臣

教育学部	
学部長	豊 泉 周 治
事務長	町 田 敦 志
附属学校教育臨床総合センター長	黒 羽 正 見
附属幼稚園長	松 永 あけみ
附属小学校長	江 森 英 世
附属中学校長	西 蘭 大 実
附属特別支援学校長	西 谷 泉
社会情報学部	
学部長	森 谷 健
事務長	石 田 滋 夫
医学部	
学部長	和 泉 孝 志
大学院医学系研究科	
研究科長	和 泉 孝 志
附属生物資源センター長	柳 川 右千夫
附属薬剤耐性菌実験施設長	富 田 治 芳
附属教育研究支援センター長	和 泉 孝 志
附属医学教育センター長	和 泉 孝 志
大学院保健学研究科	
研究科長	渡 邊 秀 臣
附属保健学研究・教育センター長	渡 邊 秀 臣
医学部附属病院	
病院長	野 島 美 久
昭和地区事務部	
事務部長	原 忠 篤
次長	福 田 美 則
総務課長	小 出 利 一
学務課長	陸 名 明
経営企画課長	森 田 浩 司
管理運営課長	岡 野 勉
医事課長	今 泉 一 宏
理工学部	
学部長	篠 塚 和 夫
事務長	清 水 伝次郎
大学院理工学府	
学府長	篠 塚 和 夫
附属ケイ素化学国際教育研究センター長	海 野 雅 史
生体調節研究所	
所長	岡 島 史 和
附属生体情報ゲノムリソースセンター長	平 井 宏 和
附属代謝シグナル研究展開センター長	北 村 忠 弘
附属生体情報シグナル研究センター長	岡 島 史 和
先端科学研究指導者育成ユニット	
ユニット長	平 塚 浩 士
未来先端研究機構	
最高責任者	高 田 邦 昭
統括責任者	平 塚 浩 士

教育学部 (荒牧地区)

教育学部は、新しい時代の学校教育を担う教員、中でも小学校・中学校・特別支援学校の教員を養成することを主な目的としている。学校教育に対する多様な要求に対し、柔軟かつ効果的にこたえられる高度な専門的知識・技術と豊かな人間性を身に付けた実践的指導力のある教育者の養成を目指している。

教育学部

課 程	入学定員	系	専 攻	講 座
学校教育教員養成課程	220	文 化 ・ 社 会	国語、社会、英語	国語教育、社会科教育、英語教育
		自 然 ・ 情 報	数学、理科、技術	数学教育、理科教育、技術教育
		芸 術 ・ 表 現	音楽、美術	音楽教育、美術教育
		生 活 ・ 健 康	家政、保健体育	家政教育、保健体育
		教育人間科学	教育、教育心理、障害児教育	学校教育、障害児教育

教育学研究科（修士課程）

専 攻	入学定員	専 修
障 害 児 教 育 専 攻	3	障害児教育
教 科 教 育 実 践 専 攻	20	国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、技術教育、家政教育、英語教育
計	23	

教育学研究科（専門職学位課程）

専 攻	入学定員	コ ー ス
教 職 リ ー ダ ー 専 攻	16	児童生徒支援、学校運営

特別支援教育特別専攻科

専攻	入学定員	コース
重複障害教育専攻	15	一種免許状取得、専修免許状取得

附属研究施設

名称	内容等
学校教育臨床総合センター	センターでは3つの部門で、実践的教育研究を進めている。教育実習・実践開発部門では、教育実習の改善研究や、授業方法・教育内容の開発研究を行っている。また、教育を工学的に考えるという立場から教育実践の改善に取り組んでいる。国際理解教育部門では、生まれ育った文化や社会が異なる子どもが混在する学校が直面している様々な問題との接点を求め、検証を行っている。教育臨床心理部門では、心理療法の実践と教育現場から現れる心身問題へ対応するためのケア・ネットワーク作りを行っている。

教育学部附属学校

幼児及び児童・生徒に対し、幼児教育、義務教育として行われる普通教育及びそれに準ずる教育等を施すとともに、それぞれに関する実践的研究や先導的研究を学部と協力して推進し地域の教育の充実・発展に寄与することや、教育学部学生の教育実習を実施することを目的としている。

平成26年5月1日現在

区 分			総定員	現 員						
				1年生／ 3歳児	2年生／ 4歳児	3年生／ 5歳児	4年生	5年生	6年生	計
教育学部	附 属 幼 稚 園		140	28	56	55				139
	附 属 小 学 校		715	102	102	101	111	107	148	671
	附 属 中 学 校		480	159	159	160				478
	附属特別 支援学校	小学部	18	3	3	1	3	3	3	16
		中学部	18	5	6	6				17
		高等部	24	4	7	7				18
計			1,395	301	333	330	114	110	151	1,339



授業風景



教育実習



体育大会（附属中学校）

社会情報学部 (荒牧地区)

高度情報社会の到来は、仕事や勉強の仕方から、政治・経済のあり方、消費・レジャー行動に至るまで、社会のあらゆる分野に大きな変化を引き起こしている。この変化を多角的・総合的に把握し、そこに発生する各種の問題を解決するためには、細分化されている既存の学問では対応しきれない。本学部では、情報科学、人文科学、社会科学、環境科学といったさまざまな分野の専門家が互いの研究成果を融合させることで、高度情報社会の諸問題の解決策を探究している。

社会情報学部

学 科	コース・科目群	入学定員	3年次編入学定員	講 座
情 報 行 動 学 科	情報メディアコース	50	10	情報行動
	情報システムコース			
情 報 社 会 科 学 科	社会・政治科目群	50	10	情報社会科学
	法 律 科 目 群			
	経 済 科 目 群			
	経 営 科 目 群			
	環 境 科 学 科 目 群			

社会情報学研究科（修士課程）

専 攻	教育・研究領域（小区分）			入学定員
社 会 情 報 学 専 攻	社会情報基盤領域	経 済 ・ 経 営 領 域	経 済 ・ 産 業	14
			経 営 ・ 環 境	
		地 域 ・ 行 政 領 域	地 域 ・ コ ミ ュ ニ テ ィ	
			行 政 ・ 法 律	
		文化・コミュニケーション領域	文 化 ・ 歴 史	
			コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	

社会情報学研究センター

設立趣旨・目的	主な活動内容
社会情報学部設立15周年にあたる平成20年10月に発足した、学部附属研究センターである。高度情報社会が内包する諸課題の解決をめざす学際的学問である「社会情報学」の研究拠点として、国内外の研究者との共同研究及び企業・自治体等との共同調査研究を行い、さらなる社会情報学の探究とその研究成果を広く社会に情報発信を行うことにより、地域社会に寄与することを目的としている。	1) 国内外の研究者の招へいと本学部教員との共同研究の実施 2) 研究成果を基にしたシンポジウム・講演会・セミナー等の開催 3) 学部内の諸社会情報学研究のコーディネート及び推進支援 4) 企業・自治体等との共同調査研究の受託 5) 学部の研究論集の発行 6) 学部・大学院の研究成果の出版・電子情報化及びその広報 7) 各種外部資金及び競争的資金の獲得 8) その他、社会情報学の発展や研究成果を活用した社会貢献に資する活動



授業風景（少人数のゼミナール）



社会情報学部創立20周年記念式典



学生が制作・編集した「学部紹介パンフレット」

医学部 (昭和地区)

医学科では、人体、生命の神秘を追求し、疾病の本態を解明し、それを克服するための方策を探究するとともに、優れた医師、真摯な医学研究者を養成することを目的としている。ここでの教育目標は、学生が将来、医師又は研究者となるために、医学の基本的知識を理解し、医療及び医学研究に必要な基本的技術を修得し、さらに医師として患者に接する真摯な態度と生涯にわたる自己学習の習慣を体得することにある。

保健学科においては、人間として、保健医療の専門職として、確固たる倫理観と豊かな人間性を持ち、その社会的使命を果たすことのできる人材の育成を図るとともに、総合的で先進的な教育・研究を展開することを目的とする。

医学部

学 科	入学定員	学 科 目
医 学 科	108 [15]	医倫理学 生命医学 応用医学 卒前臨床実習（クリニカル・クラークシップ） 実践臨床病態学

学 科	専 攻	入学定員	学 科 目
保 健 学 科	看 護 学 専 攻	80	基礎看護学、臨床看護学、母子看護学、地域看護学
	検査技術科学専攻	40	基礎検査学、応用検査学
	理学療法学専攻	20	基礎理学療法学、総合理学療法学
	作業療法学専攻	20	基礎作業療法学、心身障害作業療法学
			医療基礎学
	計	160 (10)	

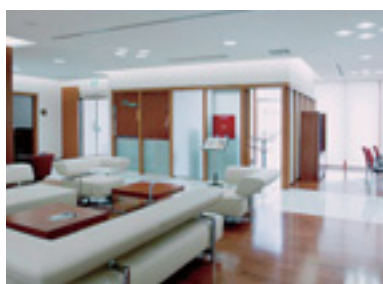
注：【 】内の数字は2年次編入学定員を表し、外数である。（ ）内の数字は3年次編入学定員を表し、外数である。

医学系研究科（修士課程）

専 攻	入学定員
修士課程	15



基礎講義棟



学習室（石井ホール）



専攻別説明会（検査）

医学系研究科（博士課程）

専攻		入学定員	講 座	専攻分野
博士課程	医科学専攻	57	脳神経病態制御学	神経生理学、病態病理学、脳神経内科学、脳神経外科学、眼科学
			脳神経発達統御学	神経薬理学、遺伝発達行動学、分子細胞生物学、神経精神医学、麻酔神経科学、
			高次細胞機能解析学 （協力講座）	細胞構造、分泌制御
			器官代謝制御学	生体構造学、病態制御内科学、泌尿器科学、産科婦人科学、臨床薬理学
			器官機能制御学	生化学、機能形態学、応用生理学、臨床検査医学、整形外科学、臓器病態内科学
			代謝・内分泌学 （協力講座）	細胞調節、遺伝生化学、代謝シグナル解析
			生体機能解析学 （連携講座）	生体機能解析学
			病態腫瘍制御学	病態腫瘍薬理学、病理診断学、病態総合外科学、腫瘍放射線学、放射線診断核医学、顎口腔科学、臓器病態外科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、*バイオイメージング情報解析学、*分子画像学、*がん治療臨床開発学講座
			重粒子線医学 （協力講座）	重粒子線医学物理・生物学、重粒子線臨床医学
			遺伝情報・発現学 （協力講座）	遺伝子情報、核内情報制御、ゲノム科学リソース
			生体防御機構学	分子予防医学、細菌学、国際寄生虫病学、法医学 生体統御内科学、小児科学、皮膚科学
			社会環境医療学	公衆衛生学、医学哲学・倫理学、総合医療学、救急医学、リハビリテーション医学、情報医療学（協分分野）
			生体情報学 （協力講座）	シグナル伝達、分子細胞制御

*印は、寄附講座

保健学研究科（博士課程）

専攻		入学定員	ユニット又は領域
博士前期課程（修士）	保健学専攻	50	基礎保健学ユニット、応用保健学ユニット、地域・国際保健学ユニット
博士後期課程（博士）		10	看護学領域、生体情報検査科学領域、リハビリテーション学領域
計		60	

附属研究施設

名 称	内 容
医学系研究科 附属生物資源センター	実験動物を用いた研究教育の材料や環境を安定的に提供し、医生物学研究の基盤施設として学内に広く貢献している。また、医生物学の研究教育における動物実験倫理、動物福祉の徹底にも努めている。
医学系研究科 附属薬剤耐性菌実験施設	本邦で唯一の薬剤耐性菌に関する専門的研究施設である。社会的に大きな問題になっている細菌が薬剤に対して耐性を獲得するしくみを遺伝学的、分子生物学的に研究している。

医学部附属病院 (昭和地区)

診療を通じて医学の教育及び研究の向上を図るものである。

病院には、教育と診療と研究の3つの重要な責務がある。教育については、医学部等の要請による臨床実習及び卒業後の初期教育が主体であり、診療については、保健医療機関として地域医療に貢献するとともに、一般医療機関では行い難い高度医療を提供する医療機関として活動し、研究については、先進医療の開発を中心とした臨床研究を行うことが、それぞれ主体となっている。

診療科		中央診療施設	診療支援部門	薬剤部	看護部
内科系	循環器内科、呼吸器・アレルギー内科、消化器内科、肝臓・代謝内科、内分泌・糖尿病内科、腎臓・リウマチ内科、血液内科、神経内科	検査部 手術部 放射線部 輸血部 集中治療部 病理部 周産母子センター 光学医療診療部	医療安全管理部 材料部 システム統合センター 臨床試験部 診療情報管理部 栄養管理部 患者支援センター 肝疾患センター 認知症疾患医療センター 医療人能力開発センター トランスレーショナルリサーチセンター		
外科系	循環器外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、移植外科、泌尿器科、歯科口腔外科	リハビリテーション部 感染制御部 腫瘍センター 重粒子線医学センター 救命・総合医療センター			
感覚器・運動機能系	整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科				
脳神経・精神・麻酔系	精神科神経科、麻酔科蘇生科、脳神経外科				
小児・女性系	小児科、小児外科、産科婦人科				
放射線系	放射線科、核医学科				

診療科及び患者数

診療科		区分		平成25年度患者数(人)	
				入院患者	外来患者
内科系	循環器内科、呼吸器・アレルギー内科、消化器内科、肝臓・代謝内科、内分泌・糖尿病内科、腎臓・リウマチ内科、血液内科、神経内科			49,840	116,925
外科系	循環器外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、移植外科、泌尿器科、歯科口腔外科			62,100	111,256
感覚器・運動機能系	整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科			52,538	166,898
脳神経・精神・麻酔系	精神科神経科、麻酔科蘇生科、脳神経外科			24,009	38,315
小児・女性系	小児科、小児外科、産科婦人科			28,272	45,965
放射線系	放射線科、核医学科			7,949	37,724
計				224,708	517,083

※病床数：724床（平成26年5月1日現在）

理 工 学 部

(桐生地区)

理学に根ざした俯瞰的な物の見方、考え方を身に付け、工学に根ざした実践的・独創的な課題解決能力を養う理工学教育を行い、個人の発想や知的好奇心を尊重し、未知の分野に挑戦する活力と創造性を育むとともに、国際コミュニケーション能力を備え、世界を舞台に研究者・技術者として活躍できる人材を育成することを目的としている。

理工学部

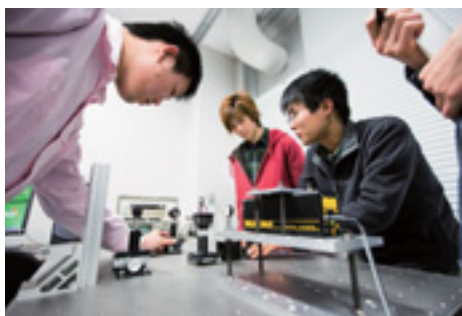
学 科	入学定員	分 野
化 学 ・ 生 物 化 学 科	160	基礎理学系分野、化学・生物学統合分野、物質科学分野、生物科学分野、計測科学分野
機 械 知 能 シ ス テ ム 理 工 学 科	110	基礎理学系分野、機械知能システム理工学統合分野、エネルギーシステム分野、マテリアルシステム分野、メカトロニクス分野、インテリジェントシステム分野
環 境 創 生 理 工 学 科	90	基礎理学系分野、環境創生理工学統合分野、社会基盤工学分野、化学工学分野、環境科学分野
電 子 情 報 理 工 学 科	120	基礎理学系分野、電子情報理工学統合分野、電子デバイス分野、電気工学分野、情報処理・通信分野、計算機科学分野
総 合 理 工 学 科 ※	30	基礎理学系分野、化学・生物学統合分野、機械知能システム理工学統合分野、環境創生理工学統合分野、電子情報理工学統合分野
計	510(30)	

※夜間主コース（フレックス制）

注：（ ）内の数字は3年次編入学定員を表し、外数である。3年次編入学の定員は学科共通である。



キャンパス内風景



授業風景（電気電子工学実験）



授業風景（機械製図）

理工学府（博士課程）

専攻		入学定員	分野又は領域
博士前期課程 （修士）	理 工 学 専 攻	300	物質・生命理工学教育プログラム 物質・生命理工学統合分野、物質科学分野、生物科学分野、計測科学分野 知能機械創製理工学教育プログラム 知能機械創製理工学統合分野、エネルギーシステム分野、マテリアルシステム分野、メカトロニクス分野、インテリジェントシステム分野 環境創生理工学教育プログラム 環境創生理工学統合分野、社会基盤工学分野、流域マネジメント工学分野、災害社会工学分野、エネルギー創生分野、環境システム制御分野、バイオプロセス開発分野、環境材料創製分野 ※日清紡アドバンストカーボン工学講座 電子情報・数理教育プログラム 電子情報理工学統合分野、電子デバイスシステム分野、計測・制御・エネルギー分野、情報通信システム分野
博士後期課程 （博士）	理 工 学 専 攻	39	物質・生命理工学領域 知能機械創製理工学領域 環境創生理工学領域 ※日清紡アドバンストカーボン工学講座 電子情報・数理領域
計		339	※印は寄附講座

生体調節研究所 (昭和地区)

本研究所では、糖尿病原因遺伝子の解明、膵臓のインスリン分泌細胞の分化・再生、インスリン分泌の分子機構の解明など、糖尿病領域の研究が進展している。また血管生物学などの基礎研究、さらに細胞間や細胞内のシグナル伝達機構の解明という基礎的な分野でも大きな成果を上げている。これらの研究によって、生体代謝調節異常に基づく生活習慣病の発症予防・病態の制御を目指す。

研究部門

研究部門	分野
生体情報部門	遺伝子情報、細胞構造、シグナル伝達、核内情報制御
病態制御部門	分泌制御、細胞調節、生体膜機能、遺伝生化学、分子細胞制御

附属研究施設

附属研究施設	分野
生体情報ゲノムリソースセンター	疾患ゲノム研究、ゲノム科学リソース
代謝シグナル研究展開センター	代謝シグナル解析、トランスレショナルリサーチ
生体情報シグナル研究センター	分泌制御、生体膜機能



生体調節研究所



生体情報ゲノムリソースセンター



代謝シグナル研究展開センター

総合情報メディアセンター

総合情報メディアセンターは、本学の教育研究支援を目的とした、学術情報の収集と情報発信ならびに基盤の整備運用等のサービスを行う部局です。資料の整備、ネットワーク及び演習用端末の管理、電子ジャーナルの契約だけでなく、学生のための「学びの場」の提供に力を入れています。また、地域の学術情報センターとして、学外者利用などの地域貢献も行っています。加えて、情報化統括責任者(CIO)の下に組織された「情報化推進室」と緊密に連携し、本学の情報化と情報セキュリティ体制の強化を一元的に推進しています。

図書館部門

図書館部門は、中央図書館(荒牧地区)、医学図書館(昭和地区)及び理工学図書館(桐生地区)で構成されています。

3館が連携・協力しながら、本学の学生・教職員及び学外利用者へのサービスを行っており、平成23年度には、群馬大学学術情報リポジトリ(GAIR)を発展的に更新し「群馬県地域共同リポジトリ(AKAGI)」を構築するなど電子図書館としての機能強化及び地域貢献に努めています。

蔵書数(平成26年5月1日現在) (単位:冊)

区分	中央図書館	医学図書館	理工学図書館	計
和書	279,882	69,196	87,830	436,908
洋書	54,116	65,363	64,860	184,339
計	333,998	134,559	152,690	621,247



中央図書館(荒牧地区)

情報基盤部門・事務情報部門

情報基盤部門は群馬大学学術情報ネットワーク(GUNet)、教育研究用計算機システムの管理運用を行っています。

GUNetは荒牧・昭和・桐生地区を1Gbps、太田地区と附属学校園を100Mbpsで接続し、本学災害対策データセンターから1Gbpsでインターネットへ接続されています。

教育研究用計算機システムでは、授業、演習等に利用される教育用端末の整備をするとともに、全学認証アカウントによる学内認証基盤を構築し、学内サービスの認証一元化を推進しています。

事務情報部門は、事務情報ネットワーク、図書館情報システム、事務用電子計算機システムの管理運用を行っています。情報基盤部門と連携し、事務の効率化・情報化を推進しています。

全学ソフトウェアライセンス(ソフトウェアの無償配布)

学生、教職員が全学的に使用するソフトウェアの標準化と、その整備に係る経費の節減、並びに、ソフトウェアの不正コピーの防止を組織的に取り組むことでのコンプライアンス対策等を目的として、マイクロソフト社との間で「マイクロソフト包括ライセンス契約」を締結しています。当該契約により本学の教職員及び学生は、個人のパソコンにも無償でWindowsやOfficeの最新バージョンを利用することができます。

無線LANシステム

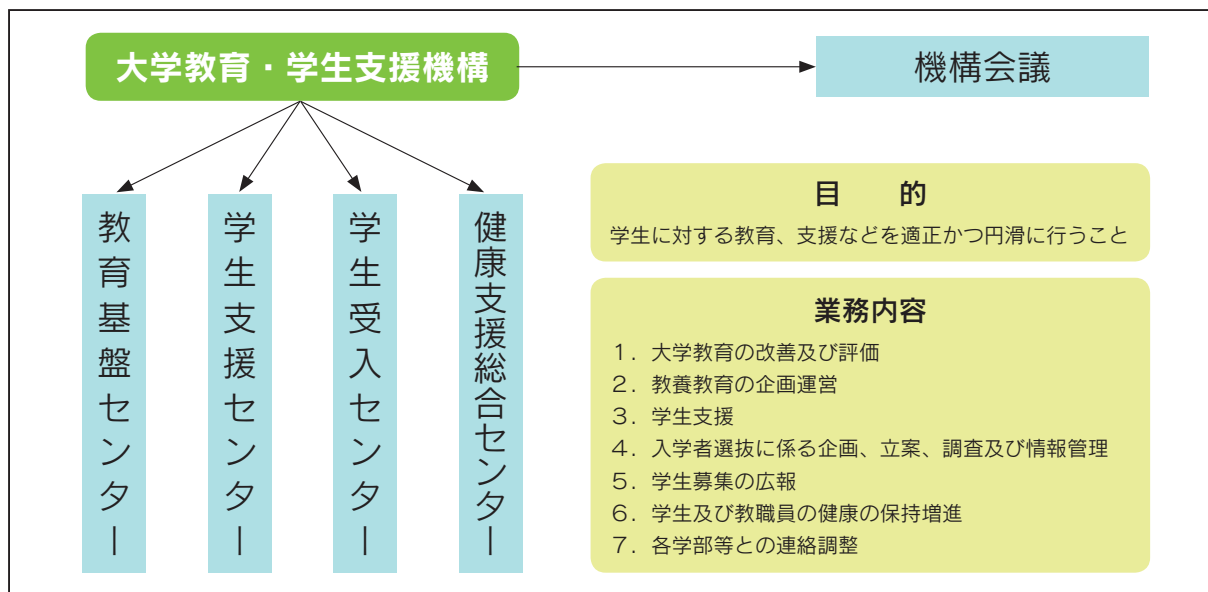
荒牧地区、昭和地区及び桐生・太田地区の建物には右のステッカーが貼ってある場所があります。この場所では、自分のPCなどから無線LANによりインターネットを利用することができます。



※総合情報メディアセンターでは、上記に加え様々なサービスを提供しています。サービスの詳細については、ホームページをご覧ください。

大学教育・学生支援機構

大学教育・学生支援機構は、教育基盤センター、学生支援センター、学生受入センター及び健康支援総合センターからなる。



教育基盤センター

目的

全学に共通する大学教育の基盤を整備するとともに、教養教育を円滑に運営すること

業務内容

1. 全学共通の教育基盤の整備
2. 大学教育の教育内容及び教育方法の改善
3. 教養教育の企画及び運営
4. 大学教育の評価
5. その他
 - ① 高大連携、大学間連携等の企画
 - ② 各種教育プロジェクト(GP)の立案

学生支援センター

目的

学生の生活及び就職活動に対する支援並びに修学に係る相談等を適切かつ円滑に行うこと

業務内容

1. 学生生活の支援
2. 学生相談の企画、立案及び実施
3. 学生の就職指導の企画、立案及び実施
4. 障害学生の修学支援

学生受入センター

目的

学生募集に係る広報の推進並びに入学者選抜の改善に係る企画、立案、調査及び研究並びに入学者選抜に係る情報の適正な管理を行うこと

業務内容

1. 学生募集に係る広報活動
2. 入学者選抜方法の改善
3. 入学者選抜に係る企画、立案、調査及び研究
4. 入学者選抜に係る情報の保護、管理及び開示
5. 入学者選抜に係るリスクマネジメント
6. 大学入試センター試験

健康支援総合センター

目的

学生及び教職員の心身の健康の保持増進を図ること

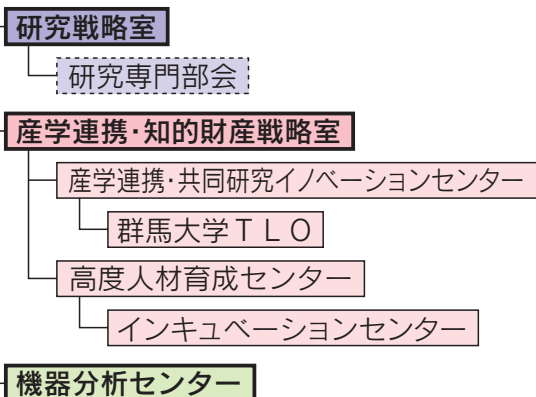
業務内容

1. 健康診断の企画、立案及び実施
2. 健康診断の事後処理等に係る指導助言
3. 身体的及び精神的（カウンセリングを含む）な健康相談
4. 応急処置
5. 健康に係る調査及び研究
6. 感染症の予防及び環境衛生に係る指導助言

研究・産学連携戦略推進機構

本機構は、研究戦略室、産学連携・知的財産戦略室及び機器分析センターから組織されており、本学の基本理念に基づき、優れた研究成果を生み出すための体制を強化し、知的財産の管理運用などを円滑に行うとともに産学官連携活動を推進し、もって本学における学術研究の一層の高度化とその成果を広く社会に還元することを目的としている。

研究・産学連携戦略推進機構

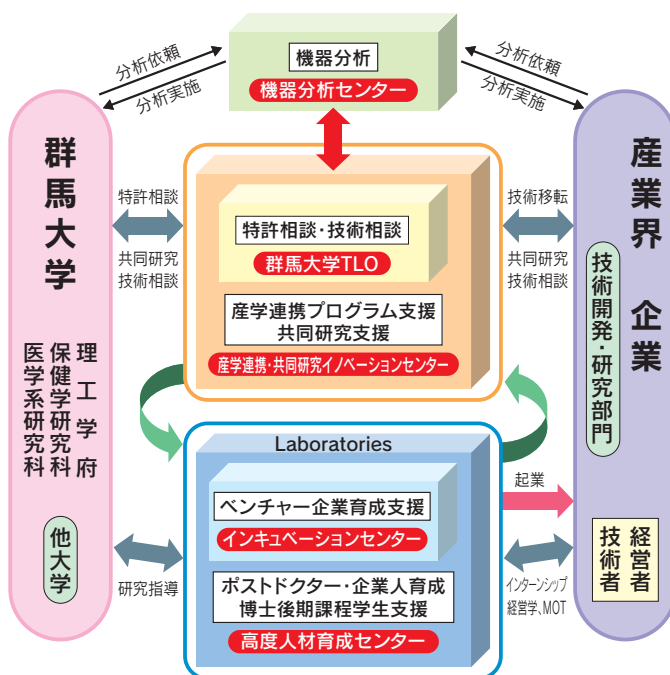


研究戦略室

学術研究に必要な研究戦略を策定し、先端研究及びプロジェクト型研究を推進させ、本学の研究成果を地域社会に広く還元すること。

産学連携・知的財産戦略室

民間企業等との共同研究等の推進並びに知的財産の創出、取得、管理及び戦略的な活用並びにポストドクター等のキャリア開発支援並びに起業家精神に富んだ人材養成並びに大学発ベンチャー企業の創出及び支援を通じて、産学官連携を積極的に推進し、本学の研究成果を社会に還元すること。



産学連携・共同研究イノベーションセンター

目的

大学と民間等外部の機関との研究協力を推進し、地域社会における研究開発に資するとともに、教育研究活動の活性化を図ること

業務内容

1. 民間機関等との共同研究及び受託研究
2. 機関等の技術者に対する技術教育の実施、協力及び援助
3. 学内の共同研究
4. 学生に対する実践的な技術教育及び研究指導
5. 社会における学術研究の交流
6. 知的財産

高度人材育成センター

目的

ポストドクター並びに学生のキャリア開発を支援するシステムを構築し、もって産業界において活躍できる実践的な人材を育成

業務内容

1. ポストドクター及び博士課程学生の実践的能力の開発
2. ポストドクターのインターンシップの実施
3. ポストドクター及び博士課程学生と企業等との交流及び連携
4. 教職員のキャリアパスに係る意識啓発
5. ポストドクター及び博士課程学生のキャリア開発プログラムの構築

群馬大学 TLO

目的

知的財産の創出、取得、管理及び活用を行い、本学の研究成果を地域社会に広く還元すること

業務内容

1. 知的財産の創出、取得、管理及び技術移転
2. 知的財産情報の発信
3. 首都圏北部地域における知的財産の技術移転支援

インキュベーションセンター

目的

研究成果及び人的資源等を活用した起業活動に必要な支援を行うこと

業務内容

1. 創造開発室の提供
2. 起業家に対する経営指導、技術指導、マーケティング指導、ビジネスプラン立案等の起業支援



インキュベーションセンター

機器分析センター

各種分析機器を集中管理し、学内外の者の共同利用に供するとともに、産学官連携の推進を図り、教育と研究開発の進展に資すること。主な業務として、①機器の管理運用、②機器による分析、測定及び解析、③分析技術の研究開発、情報収集及び情報提供、④利用者に対する講習及び技術指導を行っている。

重粒子線医学推進機構

重粒子線医学研究センター

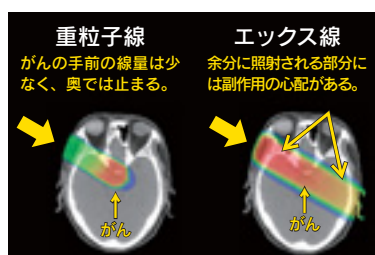
重粒子線加速器を導入し、基礎／臨床放射線医学研究ならびに重粒子線治療技術の高度化研究開発を推進するとともに、この分野を担う臨床腫瘍医、医学物理士、放射線生物学者等の養成を行うことを目的としている。

重粒子線医学センター

重粒子線がん治療の臨床試験を推進するとともに、重粒子線治療を中心としたがん診療の実践により、地域医療に貢献することを目的としている。



重粒子線照射施設外観



線量分布の比較（重粒子線とX線）



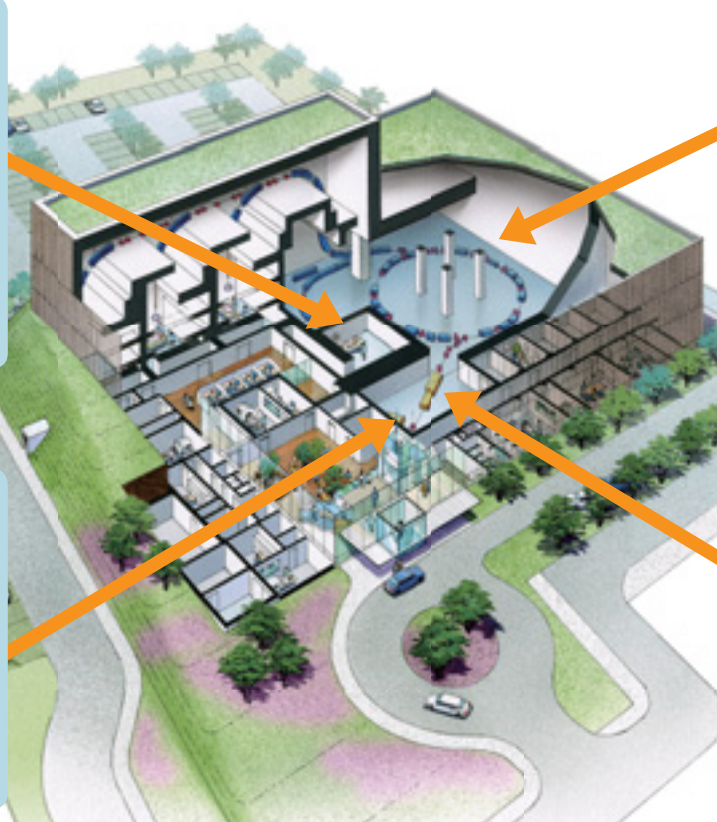
治療室

加速された炭素イオンはここで患者さんに照射される。重粒子線照射中に痛みは感じない。



イオン源装置

ここで化学物質の中の炭素原子から炭素イオンが作られる。



シンクロトロン加速器

線形加速器から送られた炭素イオンはシンクロトロンの中を周回している間に光速の70%まで加速される。

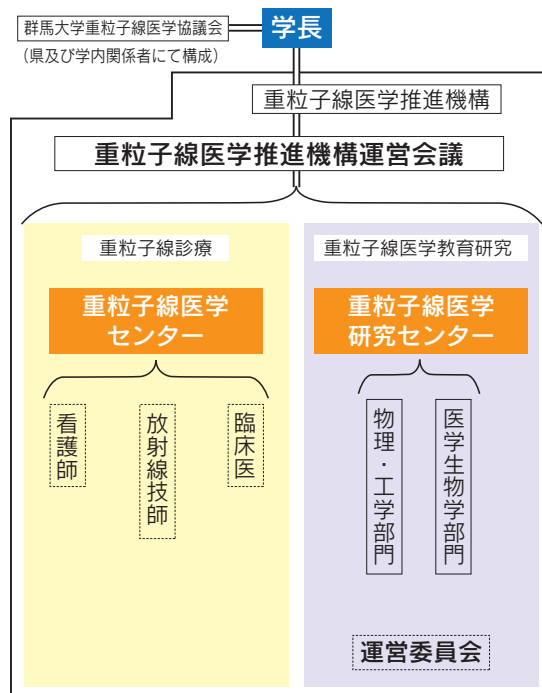


線形加速器

炭素イオンを主加速器であるシンクロトロンに送り込む前に予備的な加速を行う。

重粒子線医学にかかる研究、教育、診療活動を適正かつ円滑に推進することを目的としている。

重粒子線医療実行組織



本重粒子線照射施設は、縦横約45m×65m、高さ約20mの建築物で、その中に、重粒子（炭素イオン）を最高で光の70%程度の速度まで加速する直径約20mのシンクロトロン加速器と3治療室ならびに付帯設備を持つ。この治療装置は、重粒子線治療の普及を目指して小型化された最新の装置であり、国際的な注目を集めている。

本学では、群馬県との共同事業として、平成18年度にこの施設の建設に着手し、平成22年3月に治療を開始した。設置後の運営においては、県内医療機関と連携して、施設を効果的に活用し、群馬医療圏に高度な統合がん医療体制を構築し、重粒子線照射施設を全国の諸地域に配置する場合の施設活用のモデルとなることを目指している。

学内共同教育研究施設等

国際教育・研究センター

施設等の名称	内 容 等
国際教育・研究センター	教育・研究両面での国際交流と留学生交流等を推進するため、国際交流協定の締結、国際交流に関するプロジェクトの推進をはじめ、外国人留学生のための日本語等の教育プログラムの実施、修学・生活に関する指導や相談を行う。また、学生の海外派遣等に関する助言及び支援、日本語・日本事情教育等関係領域の調査・研究を行うことを目的とする。



日本研究実践プログラム
「邦楽コース」お琴



学内海外留学フェア
ブースの様子

多文化共生教育・研究プロジェクト推進室

施設等の名称	内 容 等
多文化共生教育・研究プロジェクト推進室	日本人住民と同様に外国人住民を地域の社会活動や経済活動に参加する新たな人的資源ととらえ、その活用を実現する社会システムや新産業を創出する人材を育成することを目的とする。



「ハタラクラスぐんま」
プロジェクト
定住外国人とともにプロジェクト
に取り組む履修生



多文化共生国際シンポジウム
履修生が地域関係者と協働で
実施したプロジェクトの成果
を発表

未来先端研究機構

施設等の名称	内 容 等
未来先端研究機構	未来先端研究機構は、群馬大学が強みを持つ統合腫瘍学（重粒子線治療等）や内分泌代謝・シグナル学（生活習慣病治療等）などの研究分野において世界水準の研究力を強化することを目的とし、先端的な研究組織として平成26年4月に設置されました。 この機構は、グローバル化に対応するため、年俸制を導入するとともに、海外トップクラスの研究者を招へいして海外研究機関のブランチ（研究室）を設置し、国際共同研究を実施する予定です。

共同研究拠点等

拠点等の名称（主たる担当部署等）	内 容 等
内分泌・代謝学共同研究拠点 （生体調節研究所）	「共同利用・共同研究拠点」事業 メタボリック症候群など社会的に要請の高い内分泌・代謝疾患の共同研究課題を遂行し、創出基盤技術等を共同利用に供することを目的とする。 共同研究として次の2つの研究課題を推進する。病因解析では、生活習慣病の感受性遺伝子群の探索等を行い、機能分析では、生活習慣病に関連したトランスレーショナルリサーチを行う。 内分泌・代謝学における研究者コミュニティの学術活動に貢献する。
アドバンストカーボン構造・機能相関解析研究拠点 （理工学府） （機器分析センター）	「低炭素社会構築に向けた研究基盤ネットワーク整備」事業 群馬大学のカーボン材料研究グループが有する、①炭素材料に関する研究開発とその技術的蓄積、②機能性ナノ材料であるナノシエルの開発力、③炭素材料の構造及び機能を解析する研究力、以上、3つの特徴をフルに活用することにより、サテライト拠点としてハブ拠点と連携して低炭素社会の構築を目指すとともに、ネットワーク構成メンバー以外の研究者にも研究設備と解析の手法を伝えることにより、機材及び知識の共有化を図る。

主な教育研究補助金採択状況

事業名	名称	主たる担当部署等	採択年度	内容
テニュアトラック普及・定着事業 (若手研究者の自立的 研究環境整備促進)	若手先端科学研究者の研究 環境改革	医学系研究科 理工学府	平成22年度 ～28年度	最先端の科学研究を自立的に遂行できる若手研究指導者を育成する。国際公募によって採用したテニュアトラック教員に、研究費と研究スペースを支援するなどし、任期終了後の高いテニュア獲得率を実現する。さらに、テニュアトラック制度の全学への拡大を目指す。
ポストドクター・ キャリア開発事業	ポストドクター支援体制の 強化による実践的な人材育 成	理工学府	平成23年度 ～27年度	高度人材育成センターを設置し、ポストドクター及び博士課程（後期）学生のカリキュラム整備、企業へのキャリアパス構築、学部から大学院博士課程までの一貫した就職支援システムの確立、PI啓発と人事評価への反映を行い、さらにこれらの基盤となる組織整備を行う。
テニュアトラック 普及・定着事業		医学系研究科 理工学府	平成24年度 ～28年度	モデル事業により構築した体制と実績を活かしてテニュアトラック制による全学的人事制度の改革を推し進める。
		教育学部	平成26年度	
女性研究者研究活動 支援事業（一般型）		男女共同参画推 進室	平成25年度 ～27年度	女性が本来の能力を十分発揮して生き生きと働ける職場を目指し、女性研究者のサポート体制と環境の整備、意識啓発と情報発信を行う。
博士課程教育リーディ ングプログラム	重粒子線医工学グローバ ルリーダー養成プログラム	医学系研究科	平成23年度 ～29年度	重粒子線医学・生物学の基礎と重粒子線先端臨床研究並びに高度医療機器の開発・運用技術の両面を教育する医学・工学融合型のリーディングプログラム重粒子線医工連携コースを創設し、重粒子線治療をけん引する優れたリーダーの養成を目指す。
がんプロフェッショナル 養成基盤推進プラン	国際協力型 がん臨床指導 者養成拠点	医学系研究科	平成24年度 ～28年度	我が国の死因第一位の疾患であり、国民の生命及び健康にとって重大な問題となっているがんの手術療法、放射線療法、化学療法その他のがん医療に携わるがん専門医療人を養成する
基礎・臨床を両輪とし た医学教育改革による グローバルな医師養成	卒前・卒後一貫MD-PhD コース	医学系研究科	平成24年度 ～28年度	卒前・卒後一貫性のある基礎医学教育・研究医の養成システムを構築し、基礎医学教育・研究医、及び法医学解剖医などの人材養成を図る。
産業界のニーズに対 応した教育改善・充 実体制整備事業	産学協働による学生の社会 的・職業的自立を促す教育 事業開発	就業力育成支援 室	平成24年度 ～26年度	産業界のニーズに対応した人材育成の取組を行う大学・短期大学が地域ごとに共同して地元の企業、経済団体、地域の団体や自治体等と産学協働のための連携会議を形成して取組を実施することにより、社会的・職業的に自立し、産業界のニーズに対応した人材の育成に向けた取組の充実を図る。
未来医療研究人材養 成拠点形成事業	地域オープンイノベーシ ョンR&D人材養成 ～医療開発研究のスタート からゴールまでを一貫する 産官学連携教育・研究プロ グラム～	医学系研究科	平成25年度 ～29年度	医療イノベーションにおける高度専門研究者及びR&Dマネジメント等の研究支援の専門人材の養成を推進し、高度化・複雑化した現代医療におけるニーズに対応した医療の開発とこれに伴う医療産業経済の成長の促進に資するため、医学系研究科に特別コース「医療開発医科学コース」を新設するとともに学部での導入教育も開始し、地域に根差した医療イノベーションを促進・実践・展開・推進するための人材養成・教育事業を推進する。

平成25年度地域貢献事業一覧

担当部局	学科等名	担当者	事業名
各部局	地域連携推進室 外	平塚 浩士 理事 山田 功 教授	こども体験教室「群馬ちびっこ大学」
教育学部 (群馬大学と群馬県教育委員会との連携に係る協議会) 理工学研究院	理科教育講座 数学教育講座 分子科学部門	日置 英彰 教授 照屋 保 准教授 中村 洋介 教授	科学の甲子園群馬県大会の開催
教育学部 (群馬大学と群馬県教育委員会との連携に係る協議会)		豊泉 周治 学部長	教育改革・群馬プロジェクト
教育学部 理工学研究院	技術教育講座 知能機械創製部門	三田 純義 教授 松原 雅昭 教授	高校物理の「電気」を具体例から学ぶ (コンピュータを使った計測・制御技術)
教育学部	美術教育講座	茂木 一司 教授 郡司 明子 准教授 外	地域アートプロジェクトを活用した児童生徒の アート制作&鑑賞ワークショップの実践支援
教育学部	理科教室講座	岩崎 博之 教授	夏の爛恋が快適空間であることの実証実験
社会情報学部	情報社会科学科 情報行動学科	西村 淑子 教授 森谷 健 教授	東日本大震災による群馬県内被災者支援事業
医学系研究科	神経精神医学分野	福田 正人 教授	メンタルヘルス多職種チームのネットワーク構築と自助グループの育成
医学系研究科	整形外科科学分野	高岸 憲二 教授	片品村 関節と痛みの検診
医学系研究科	顎口腔科学分野	横尾 聡 教授	群馬県における口腔がん検診推進事業
保健学研究科 医学部附属病院	看護学 腫瘍センター 看護部	神田 清子 教授 二渡 玉江 教授 塚本 憲史 センター長 角田 明美 副看護師長	ーがんに強い地域社会の構築ー がんピアサポーター養成研修修了者の活動 支援モデルの構築
保健学研究科	保健学研究・教育センター 地域保健推進室	浅川 康吉 准教授 佐藤 由美 教授 牛久保美津子 教授 横山 知行 教授 山口 晴保 教授 椎原 康史 教授	群馬県民を対象とした体験型健康啓発イベントの開催
保健学研究科	看護学	内田 陽子 准教授	認知症や障がいをもっても安心して暮らせる減災対策
医学部附属病院 保健学研究科	集中治療部 救急部 麻酔神経科学分野	齋藤 繁 教授 大嶋 清宏 教授	医療ガスインフラの災害対策マニュアル整備事業
医学部附属病院	小児科	荒川 浩一 教授 岡田 恭典 講師	自閉症スペクトラムのある人たちへの支援 ～ソーシャルストーリーズ普及に向けた活動～
医学部附属病院	小児科	荒川 浩一 教授 岡田 恭典 講師	発達障害の子どもたちが地域で暮らすために ～いじめから守るために～
理工学研究院	分子科学部門 知能機械創製部門 環境創生部門 電子情報部門	大澤 研二 教授 石間 経章 教授 板橋 英之 教授 山崎 浩一 教授	高校生サイエンスインストラクター育成プログラム ～教えることから学ぶ科学～
理工学研究院	知能機械創製部門	船津 賢人 准教授 天谷 賢児 教授	スマイルマッププロジェクト2013
生体調節研究所	遺伝生化学分野 外	久保原 禅 准教授	最先端生命科学セミナー
医科学系研究科	地域連携推進室 外	平塚 浩士 理事 小山 洋 教授	地域貢献シンポジウム

こども体験教室「群馬ちびっこ大学」



体験教室会場の様子



「みんなで作ろう入浴剤」コーナー



「ボンボン蒸気船をつくろう!」コーナー

公開講座 (平成26年度)

Aコース「一般市民」対象

講 座 名	期間及び時間数	募集人数
子ども一人ひとりの学びをデザインしよう	4日間 (16時間)	約30人
企業・産業分析スキル (金融ビジネスの基礎と実際を知るー産業金融から個人金融までー)	9日間 (22.5時間)	約20人
体感！源氏物語の世界 ー柏木の「恋」をめぐってー	2日間 (5時間)	約100人
市民のための憲法講座 ～日本国憲法の三大原則を学ぶ	3日間 (4.5時間)	約30人
社会起業家特論 (ビジネスプラン策定スキル)	9日間 (22.5時間)	約20人

Bコース「専門技術者等」対象

講 座 名	期間及び時間数	募集人数
薬剤師のためのフィジカルアセスメント・疾患編 (関節リウマチ) ①	1日間 (6時間)	約16人
障害児教育総論	2日間 (15時間)	約30人
LD等教育総論	2日間 (15時間)	約30人
聴覚障害児の教育	2日間 (15時間)	約30人
視覚障害児の理解	2日間 (15時間)	約30人
病弱児教育総論	2日間 (15時間)	約30人
薬剤師のためのフィジカルアセスメント・疾患編 (関節リウマチ) ②	1日間 (6時間)	約16人



平成25年度公開講座Aコース
体感！源氏物語の世界 ー六条御息所の情念をめぐってー



平成25年度公開講座Bコース
薬剤師のためのフィジカルアセスメント・褥瘡ケア入門①

開放講座 (平成26年度)

Aコース「一般市民」対象

講 座 名	期間及び時間数	募集人数
途上国！行ってみたらこんなトコ！	1日間 (2時間)	約50人
「共創」価値創出へ向けた経営・会計分析	1日間 (3時間)	約15人
サイエンスカフェ in 桐生①	1日間 (1.5時間)	約20人
世界脳週間2014「脳への挑戦」	1日間 (4.5時間)	約100人
国際協力、はじめの一歩！	1日間 (5時間)	約20人
電気を安全に扱うために	1日間 (2時間)	約20人
市民のための憲法講座 ～平和主義を学ぶ	1日間 (1.5時間)	約20人
サイエンスカフェ in 前橋①	1日間 (未定)	約20人
シリーズ ここでしか聞けない医学・科学の話あれこれ (仮題)	20日間 (30時間)	約20人
FLC・医理工GFL 体験学習ブース (仮題)	1～3日間 (未定)	人数制限なし
群衆と集団の社会心理学 ー人はなぜ集団になると怠けるのか	1日間 (1.5時間)	約50人
「細菌」って何？ ～人に病気を起こす生物としての細菌について～	1日間 (2時間)	約50人
サイエンスカフェ in 桐生②	1日間 (未定)	約20人
サイエンスカフェ in 前橋②	1日間 (未定)	約20人

Bコース「専門技術者等」対象

講 座 名	期間及び時間数	募集人数
高校生を対象とした授業公開	16日間 (24時間)	約16人
英語教師の英語力アップ講座	1日間 (2時間)	約30人
からだであそぼう!! からだでうたおう!!	2日間 (6時間)	約20人



平成25年度開放講座Aコース
放射線利用と画像診断の最前線



平成25年度開放講座Bコース
からだであそぼう!! からだでうたおう!!

学生の数

学部

平成26年5月1日現在（人）

学部	学 科 等	入学 定員	収容 定員	現 員																					
				1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			6年次			計			
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
教育学部	学校教育教員養成課程	220	880	107	118	225	117	115	232	103	123	226	109	131	240							436	487	923	
社会情報学部	情 報 行 動 学 科	50(10)	220	24	29	53	17	35	52	18	44	62	26	47	73							85	155	240	
	情 報 社 会 科 学 科	50(10)	220	30	23	53	32	19	51	31	32	63	49	30	79							142	104	246	
	計	100(20)	440	54	52	106	49	54	103	49	76	125	75	77	152							227	259	486	
医学部	医 学 科	108[15]	704	83	32	115	95	41	136	85	42	127	77	44	121	63	43	106	68	50	118	471	252	723	
	保 健 学 科	160(10)	660	28	135	163	32	136	168	38	138	176	33	134	167							131	543	674	
	計	268 [15] (10)	1,364	111	167	278	127	177	304	123	180	303	110	178	288	63	43	106	68	50	118	602	795	1,397	
理工学部	化 学 ・ 生 物 化 学 科	160	320	101	70	171	98	65	163													199	135	334	
	機械知能システム理工学科	110	220	114	6	120	109	6	115													223	12	235	
	環 境 創 生 理 工 学 科	90	180	77	21	98	74	20	94													151	41	192	
	電 子 情 報 理 工 学 科	120	240	121	12	133	116	14	130													237	26	263	
	総 合 理 工 学 科※	30	60	29	4	33	26	6	32													55	10	65	
工学部	昼間コース	応用化学・生物化学科		340	3		3	15	2	17	117	66	183	106	80	186							241	148	389
		機械システム工学科		140				14		14	82	7	89	77	6	83							173	13	186
		生産システム工学科		80							48	6	54	39	8	47							87	14	101
		環境プロセス工学科		80				2		2	39	10	49	35	12	47							76	22	98
		社会環境デザイン工学科		80	1		1	7		7	33	9	42	43	11	54							84	20	104
		電気電子工学科		140							86	3	89	76	4	80							162	7	169
		情 報 工 学 科		100							67	6	73	64	6	70							131	12	143
	旧学科	応 用 化 学 科																							
		材 料 工 学 科												1		1							1		1
		生物化学工学科												1		1							1		1
		機械システム工学科												1		1							1		1
		建 設 工 学 科																							
		電気電子工学科																							
		情 報 工 学 科												1		1							1		1
		生産システム工学科		60							30	1	31	31	3	34							61	4	65
夜間主コース	旧学科	応 用 化 学 科																							
	生物化学工学科																								
	機械システム工学科																								
	電気電子工学科																								
	情 報 工 学 科																								
	計	510(30)	2,040 [60]	446	113	559	461	113	574	502	108	610	475	130	605							1,884	464	2,348	
	合 計	1,098 [15] (60)	4,724 [60]	718	450	1,168	754	459	1,213	777	487	1,264	769	516	1,285	63	43	106	68	50	118	3,149	2,005	5,154	

注：【 】内の数字は2年次編入学定員を表し、外数である。（ ）内の数字は3年次編入学定員を表し、外数である。工学部の編入学定員は学科共通。[]内の数字は工学部学科共通収容定員を表し、外数である。
※夜間主コース（フレックス制）

大学院

平成26年5月1日現在（人）

研 究 科 等			専 攻	入学 定員	収容 定員	現 員																	
						1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			計		
						男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
教育学研究科	修 士 課 程	障害児教育専攻	3	6	2	2	4	2	1	3										4	3	7	
		教科教育実践専攻	20	40	17	9	26	18	7	25										35	16	51	
		小 計	23	46	19	11	30	20	8	28										39	19	58	
	専門職学位課程	教職リーダー専攻	16	32	7	7	14	7	9	16										14	16	30	
	計			39	78	26	18	44	27	17	44									53	35	88	
社会情報学研究科			社会情報学専攻			14	28	5	8	13	8	10	18							13	18	31	
医学系研究科	修 士 課 程	生命医科学専攻	15	30	9	5	14	9	2	11										18	7	25	
	博 士 課 程	医 科 学 専 攻	57	228	47	21	68	42	21	63	42	14	56	66	20	86				197	76	273	
	計			72	258	56	26	82	51	23	74	42	14	56	66	20	86			215	83	298	
保健学研究科	博士前期課程	保 健 学 専 攻	50	100	19	16	35	25	30	55										44	46	90	
	博士後期課程	保 健 学 専 攻	10	30							5	6	11	10	2	12	12	35	47	27	43	70	
	計			60	130	19	16	35	25	30	55	5	6	11	10	2	12	12	35	47	71	89	160
理工学府	博士前期課程	物質・生命理工教育プログラム		300	600	71	26	97	71	24	95									142	50	192	
		知能機械創製理工学教育プログラム				80	4	84	68	2	70									148	6	154	
		環境創生理工学教育プログラム				56	7	63	45	4	49									101	11	112	
		電子情報・理数教育プログラム				87	5	92	93	4	97									180	9	189	
		計			300	600	294	42	336	277	34	311								571	76	647	
	博士後期課程	物質・生命理工教育プログラム		39	78							7	1	8	5	1	6				12	2	14
		知能機械創製理工学教育プログラム								4	1	5	8		8				12	1	13		
		環境創生理工学教育プログラム								4		4	3	2	5				7	2	9		
		電子情報・理数教育プログラム								5		5	5		5				10		10		
		計			39	78							20	2	22	21	3	24				41	5
	計			339	678	294	42	336	277	34	311	20	2	22	21	3	24				612	81	693
	工学研究科	博士前期課程	応用化学・生物化学専攻							3	1	4									3	1	4
			機械システム工学専攻							2	1	3									2	1	3
生産システム工学専攻								3	1	4									3	1	4		
環境プロセス工学専攻																							
社会環境デザイン工学専攻								2		2									2		2		
電気電子工学専攻								2		2									2		2		
情 報 工 学 専 攻								2		2									2		2		
小 計								14	3	17									14	3	17		
博士後期課程		工 学 専 攻			39										4		4	54	2	56	58	2	60
		旧専攻	生産工学専攻																				
			ナノ材料システム工学専攻																				
		小 計				39									4		4	54	2	56	58	2	60
計				39				14	3	17				4		4	54	2	56	72	5	77	
課程別内訳	修士課程及び博士前期課程			402	804	346	82	428	353	87	440									699	169	868	
	博士課程及び博士後期課程			106	375	47	21	68	42	21	63	67	22	89	101	25	126	66	37	103	323	126	449
	専 門 職 学 位 課 程			16	32	7	7	14	7	9	16										14	16	30
合 計				524	1,211	400	110	510	402	117	519	67	22	89	101	25	126	66	37	103	1,036	311	1,347

専攻科

平成26年5月1日現在（人）

専 攻 科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員		
				男	女	計
特別支援教育特別専攻科	重複障害教育専攻	15	15	4	5	9

入学志願状況等

平成26年4月1日現在（人）

入学志願状況（平成26年度）

学 部	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
教 育 学 部	220	466 (2)	483	949 (2)	4.3	107	118	225
社会情報学部	100	162 (1)	151	313 (1)	3.1	54	52	106
医 学 部	268	443	761 (2)	1,204 (2)	4.5	105	166	271
理 工 学 部	510	1,197 ⁽⁹⁾ _[7]	283 ⁽³⁾ _[1]	1,480 ⁽¹²⁾ _[8]	2.9	432 ⁽¹⁾ _[7]	110 [1]	542 ⁽¹⁾ _[8]
計	1,098	2,268 ⁽¹²⁾ _[7]	1,678 ⁽⁵⁾ _[1]	3,946 ⁽¹⁷⁾ _[8]	3.6	698 ⁽¹⁾ _[7]	446 [1]	1,144 ⁽¹⁾ _[8]

注：（ ）内の数字は私費外国人留学生入試による志願者数・入学者数を表し、外数である。

[] 内の数字はマレーシア政府派遣留学生を表し、外数である。

2年次編入学（平成26年度）

学 部 等	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
医学部医学科	15	209	87	296	19.7	9	6	15

3年次編入学（平成26年度）

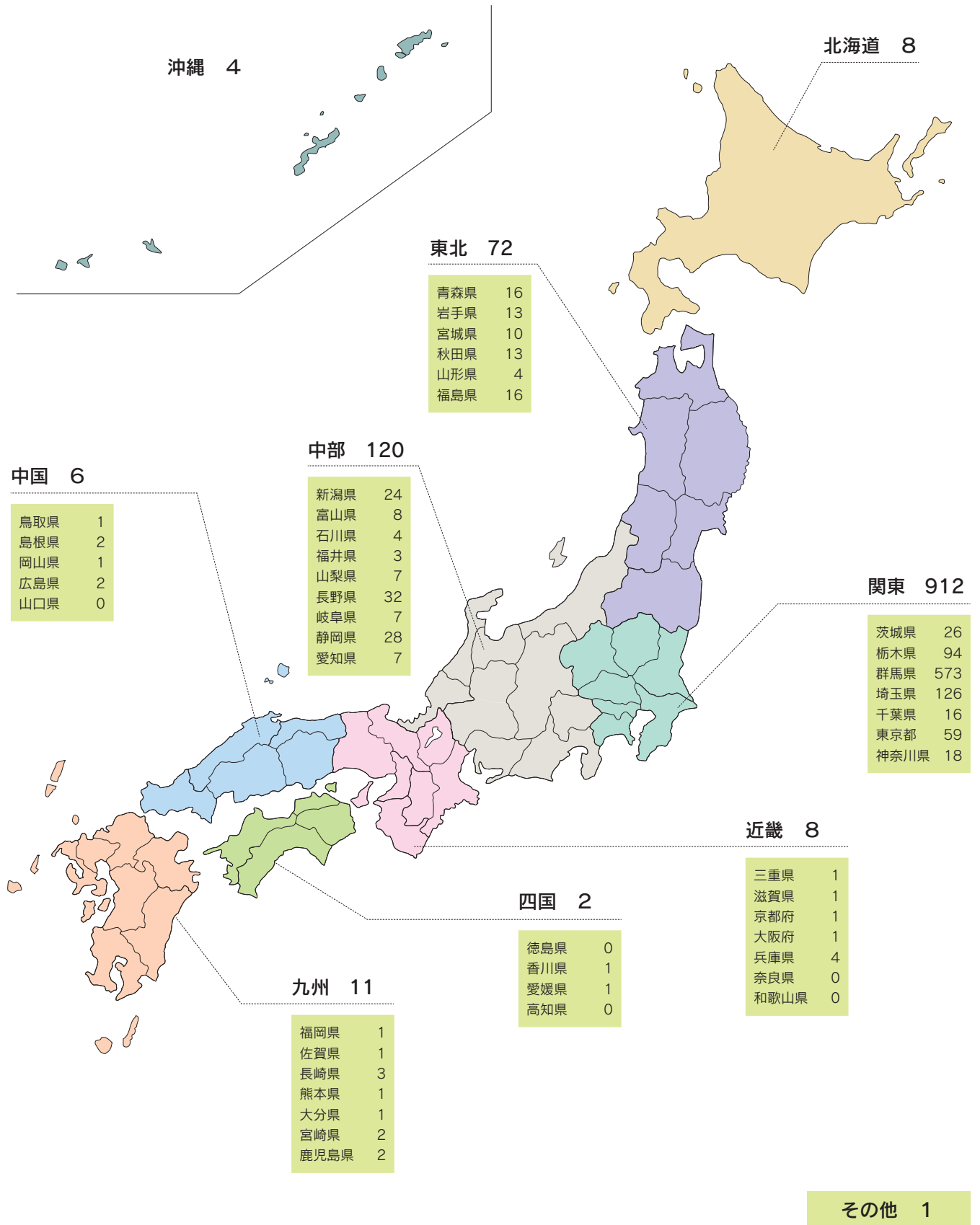
学 部 等	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
社会情報学部	20	27	57	84	4.2	4	18	22
医学部保健学科	10	3	12	15	1.5	1	5	6
工 学 部	30	54	10	64	2.1	27	6	33
計	60	84	79	163	2.7	32	29	61



入学式

学部入学者の出身地区別内訳 (平成26年度)

平成26年4月1日現在 (人)
※外国人留学生を除く



卒業・修了者数・学位授与者数

平成26年5月1日現在（人）

平成25年度卒業・修了者数

学 部 区 分	学 部	大 学 院									専攻科	合 計
		修士課程			博士課程			専門職学位課程				
		男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計		
教 育 学 部	229	15	10	25				9	9	18	17	289
社会情報学部	113	4	6	10								123
医 学 部	269	32	41	73	33	24	57					399
工 学 部	568	276	50	326	13	3	16					910
計	1,179	327	107	434	46	27	73	9	9	18	17	1,721

卒業・修了者数（累計）

学 部	学 部	大学院			専攻科	臨時教員 養成課程	2年課程	合 計
		修士課程	博士課程	専門職 学位課程				
教 育 学 部	16,195	887		77	356	235	1,419	19,169
社会情報学部	1,988	195						2,183
医 学 部	7,639	681	1,574					9,894
工 学 部	26,003	7,355	488		47			33,893
計	51,825	9,118	2,062	77	403	235	1,419	65,139
医療技術短期大学部	2,647				340			2,987
工業短期大学部	4,886							4,886

学位授与者数（累計）

種 類	計
博士（医学） 課程修了 論文提出	2,902 1,500 1,402
博士（保健学） 課程修了 論文提出	76 74 2
博士（工学） 課程修了 論文提出	607 488 119
修士（教育学）	887
修士（社会情報学）	195
修士（生命医科学）	65
修士（保健学）	616
修士（工学）	7,355
教職修士（専門職）	77

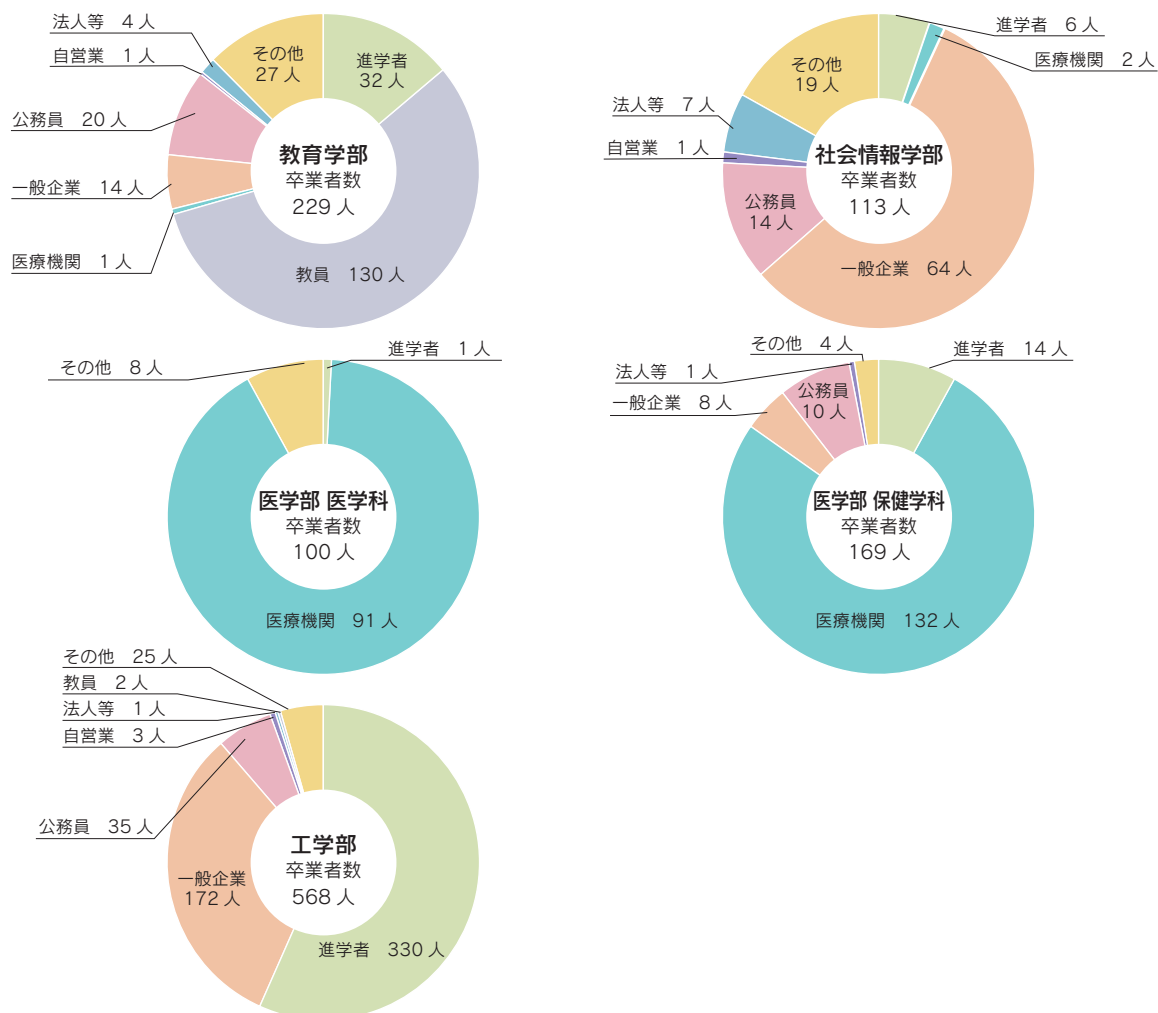


学位記授与式

卒業後の状況

平成26年5月1日現在（人）

学部卒業者の進路状況（平成25年度 ※9月卒業者を含む）



大学院修了者の進路状況（平成25年度 ※年度内修了者を含む）

研究科		修了者数	進学者数	就職者数						計	その他
				教員	医療機関	一般企業	公務員	自営業	法人等		
教育学研究科	修士課程 専門職学位課程	43		39		2	1		1	43	
社会情報学研究科	修士課程	10			1	3	1		1	6	4
医学系研究科	修士課程 生命医科学	16	3	1	1	4			1	7	6
医学系研究科	博士課程 医科学専攻	43		7	22			2	8	39	4
保健学研究科	博士前期課程 保健学専攻	57	3	6	27	12	1		4	50	4
保健学研究科	博士後期課程 保健学専攻	14		7	3				3	13	1
工学研究科	博士前期課程	326	11	1		281	14		3	299	16
工学研究科	博士後期課程	16				7			6	13	3
計		525	17	61	54	309	17	2	27	470	38

専攻科修了者の進路状況（平成25年度）

専攻科		修了者数	進学者数	就職者数						計	その他
				教員	医療機関	一般企業	公務員	自営業	法人等		
特別支援教育特別専攻科		17		13		1	2			16	1

国際交流協定

国際交流協定

■大学間協定（37件：18ヶ国・1地域）

■学部間協定（61件：18ヶ国・1地域）

アジア

中華人民共和国

西安交通大学（平成13.12.4）
厦門大学（平成14.9.19）
沈阳化大（平成15.3.31）
華北電力大学（平成17.5.22）
大連医科大学（平成18.7.12）
大連理工大学（平成19.1.30）
大連工業大学（平成19.9.26）
中国科学院過程工程研究所（平成20.7.16）
重慶交通大学（平成21.3.25）
海南大学（平成21.7.29）

南開大学生命科学学院（平成14.11.2）
中山大学化学・化学工程学院（平成17.11.2）
内蒙古大学生命科学学部（平成19.2.13）
合肥工業大学（計器科学及光電工学院）（平成20.2.23）
上海交通大学（機械工学部）（平成20.3.25）
上海理工大学光学・電子情報工程学院（平成20.7.28）
成都理工大学地質災害防止及び地質環境保護国家重点
實驗室（平成20.10.8）
中国鉱業大学（平成21.1.23）
東北大学理学院（平成21.2.28）
清華大学機械工程学院（平成21.3.29）
西南交通大学機械工学部（平成21.7.1）
湖南科技大学（平成21.10.16）
河北工業大学材料学院（平成22.3.20）
揚州大学エネルギー源と動力工程学院（平成24.6.26）
揚州大学情報工程（平成25.1.30）
厦門理工学院光電通信工程学院（平成25.7.22）

大韓民国

嶺南大学校（平成15.9.5）
建国大学校（平成19.3.6）
韓国原子力医学院（平成19.10.18）
ソウル大学校（平成20.10.27）
全南国立大学ホルモン研究センター（平成8.12.4）
釜山国立大学（薬学部）（平成18.4.17）
ソウル科学技術大学校産業大学院（平成21.1.1）
韓国先端ケイ素材料研究教育センター（平成21.2.3）
韓国科学技術院ナノサイエンス研究部門（平成21.2.5）
壇国大学校光機能エネルギー材料センター（平成21.5.22）
木浦大学校工学部（平成21.8.17）
慶熙大学校工科大学（平成21.12.14）
延世大学校科学技術大学（平成24.5.2）
延世大学校工科大学（平成25.1.30）

ヨーロッパ

ヨーロッパ

ハンガリー

カローリ・ガーシュバル・カルビン派大学（平成22.3.17）

スロベニア

リュブリャナ大学（平成20.9.19）

ドイツ

ドイツ重イオン研究所ヘルムホルツセンター（平成20.11.18）

英国

グリンドール大学（平成20年度～）
（旧北東ウェールズ高等教育インスティテュート）（昭和62.3.17）

シティ大学（平成6.1.27）
サンダーランド大学（平成14.7.3）

フランス

地中海大学（マルセイユ大学Ⅱ）（平成17.7.25）

モンペリエ大学国立化学大学院（平成21.2.11）
パリ電気電子エンジニア高等学院（平成21.3.2）

イタリア

フィレンツェ大学（平成15.4.16）

ロシア

クラスノヤルスク医科大学（平成19.4.15）

アゼルバイジャン

バクー国立大学（平成21.1.27）

ポーランド

ヤギェウォ大学（平成24.3.29）

スウェーデン

ボローズ大学工学部（平成24.2.22）

チェコ

オストラバ工科大学（平成24.11.30）

スペイン

バレンシア工科大学（平成26.2.19）

アジア

オセアニア

台湾

東海大学（平成15.6.27）
国立台北教育大学（平成18.3.24）
国立虎尾科技大学（平成25.1.21）

龍華科技大学工程学院（平成18.12.13）

フィリピン

フィリピン大学マニラ校（平成21.2.16）

モンゴル

モンゴル健康科学大学（平成24.10.5）

マレーシア

マレーシア国立大学（平成21.2.23）
ペトロナス工科大学（平成25.7.30）

ベトナム

ハノイ工科大学（機械工学部）（平成20.1.23）
ベトナム原子力研究所ハノイ照射センター（平成25.2.23）

インドネシア

バジャジャラン大学（平成8.9.20）
インドネシア教育大学（平成21.3.16）
バンドン工科大学数理・自然科学部（平成22.10.11）

バングラデッシュ

ダッカ大学（平成22.12.12）

タイ

チェンマイ大学（平成19.9.11）

モンクット王ラカバン工科大学（平成20.12.12）
ラジャマンガラ工科大学産業工学部（平成21.5.26）
泰日工業大学（平成21.7.21）
マヒドル大学理学部（平成23.2.22）
ナコンパトムラチャット大学理工学部（平成24.2.2）
チュラロンコン大学工学部（平成24.12.4）
モンクット王トンブリ工科大学（平成25.5.10）
ラジャマンガラ工科大学工学部（平成26.1.28）

インド

アリガルモスリム大学（平成18.3.22）
インド工科大学デリー校（平成22.1.18）

北米

カナダ

オタワ大学（平成13.11.26）
プリティッシュコロンビア大学（平成16.3.31）

米国

ノースダコタ州立大学（平成22.5.27）
サンディエゴ州立大学（平成23.3.3）
ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校（平成25.7.12）

シアトル・バシフィック大学（平成8.10.1）
ワシントン大学（医学部）（平成14.4.2）
ワシントン大学（工学部）（平成18.6.26）
マサチューセッツ総合病院 Francis H. Burr 陽子線治療センター／
放射線腫瘍学科（平成20.5.6）
d/b/a メイヨクリニク メイヨクリニクロチェスター
放射線腫瘍学科（平成20.10.23）
マーシャル大学生物学部（平成21.6.29）
ビュージェットサウンド大学（平成23.10.3）

中南米

中南米

ニカラグア

ニカラグア国立自治大学マナグア校（平成17.7.1）

コロンビア

サバナ大学（平成16.4.20）

ブラジル

サンパウロ大学（平成21.2.20）

ペルー

ペルーボンティフィシアカトリック大学（平成20.3.25）

オセアニア

オーストラリア

マッコーリー大学（平成15.6.7）

外国人留学生数

「国費」… 文部科学省国費外国人留学生

「私費」… 私費外国人留学生

※外国政府（マレーシア政府派遣など）の奨学金を受給する者及びJASSOの留学生対象奨学金、民間の奨学金を受給する者を含む。

平成26年5月1日現在（人）

地 域	国 名	学部学生		大学院学生				研究生				聴講生	特別聴講学生				特別研究学生		計		合計
				修士課程		博士課程		学部		大学院		学部	学部		大学院		大学院				
		国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	県費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	
アジア （13ヶ国） 1地域	中国	3	7		47	1	16		12					7		3			4	92	96
	マレーシア		29		3		4													36	36
	ベトナム		12		5		1		1											19	19
	インドネシア		1	1	7	4	5	2					1						8	13	21
	モンゴル	1	2	1	2	2	2												4	6	10
	台湾				1		1							5						7	7
	タイ			2			2							1		1			2	4	6
	バングラディシュ				1	1													1	1	2
	カンボジア	4																	4		4
	韓国		1				2							1						4	4
	ラオス	2	1																2	1	3
	タジキスタン	2																	2		2
	フィリピン					1													1		1
	ネパール					1	1												1	1	2
	小 計	12	53	4	66	10	34	2	13				1	14		4			29	184	213
中近東 （2ヶ国）	イラン				1				1					1						2	2
	トルコ																		1		1
	小 計				1				1				1						1	2	3
アフリカ(1ヶ国)	コンゴ					1													1		1
	小 計					1													1		1
北米(1ヶ国)	アメリカ									1				3					1	3	4
	小 計									1				3					1	3	4
中南米 （2ヶ国）	ブラジル												1						1		1
	コロンビア						1													1	1
	小 計						1						1						1	1	2
ヨーロッパ （6ヶ国）	アゼルバイジャン													2						2	2
	イギリス		1																	1	1
	ポーランド												1						1		1
	ルーマニア												1						1		1
	スロベニア			1										1					1	1	2
	ハンガリー													1					1		1
	小 計		1	1									3	3		4			4	4	8
合 計（29ヶ国 1 地域）		12	54	5	67	11	35	2	14	1			6	20		4			37	194	231

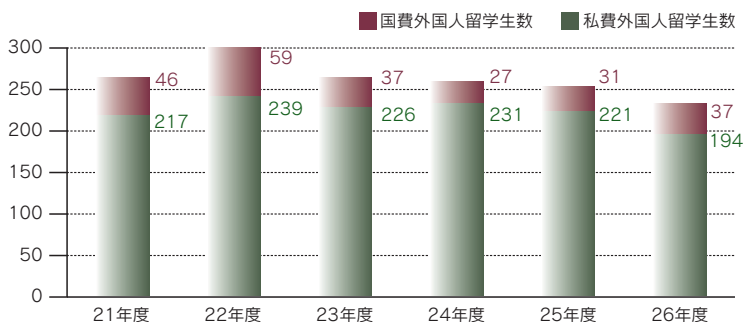
学部・研究科等別内訳

教育学部・教育学研究科				1			2	1			2	9	1			4	12	16
社会情報学部・社会情報学研究科	2	1	11				4				4	6				5	23	28
医学部医学科・医学系研究科			1	5	9	12		1								11	17	28
医学部保健学科・保健学研究科			1	2		2										1	4	5
理工学部・理工学府*	12	52	2	48	2	21	9				5	3				16	138	154
計	66			118			17				30						231	

※工学部、工学研究科の学生を含む。

国費・私費外国人留学生数

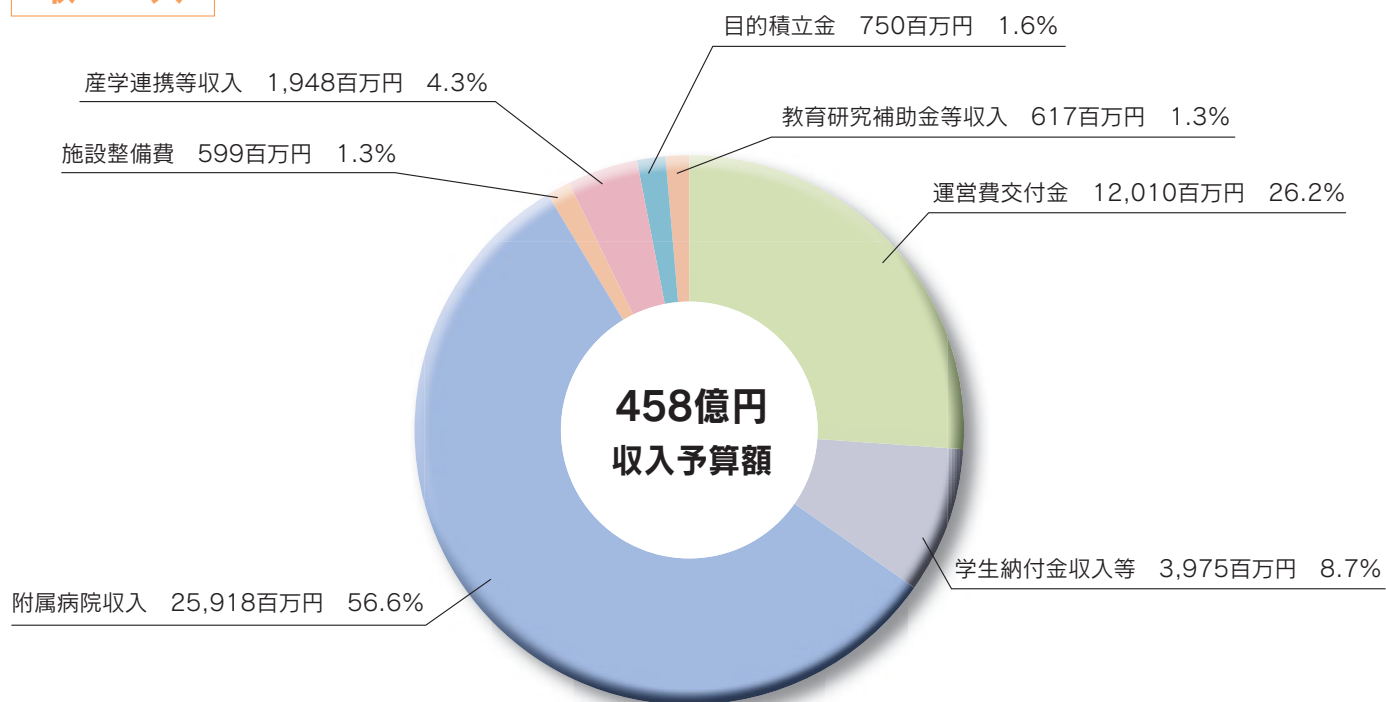
平成21～26年度（人）



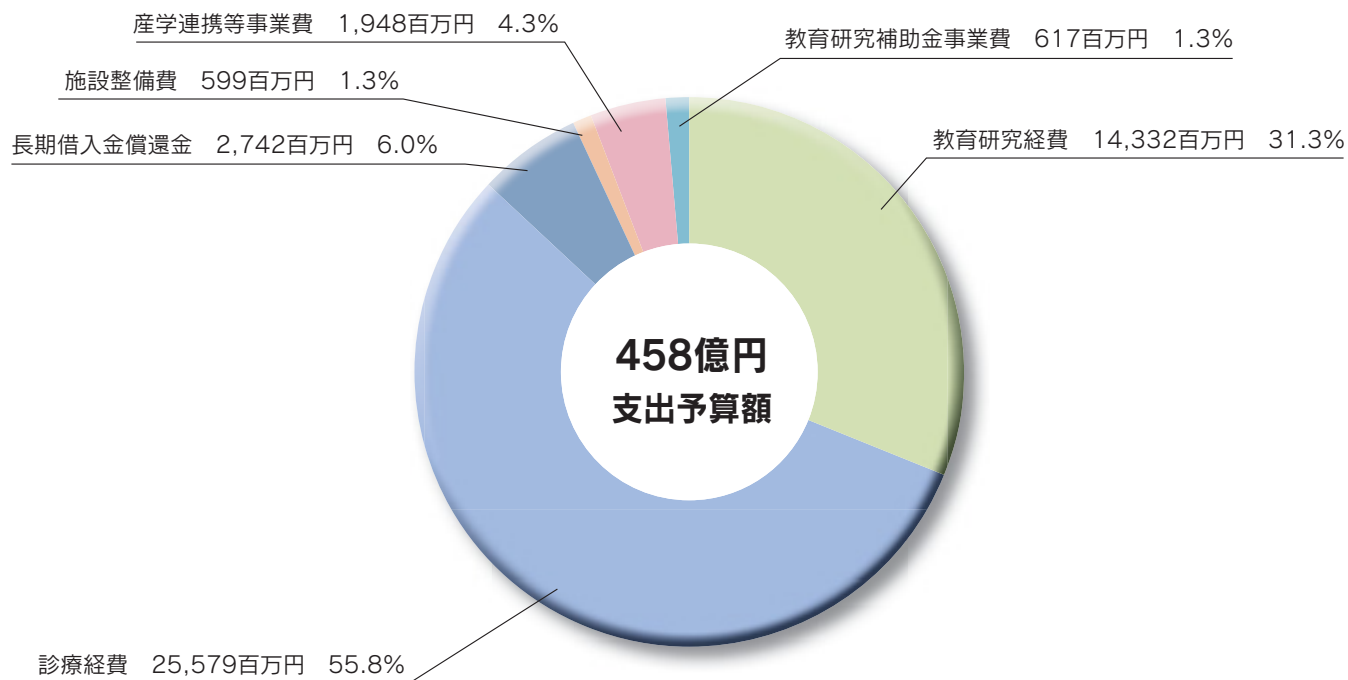
授業風景

平成26年度収入・支出予算額

収入



支出



※平成25事業年度の決算については、文部科学大臣の承認後、本学のホームページにおいて公表することとしております。(6月末現在)

研究費等受入状況

平成26年5月1日現在（千円）

科学研究費助成事業採択状況（平成26年度）

研究種目	採択件数	金 額
新 学 術 領 域 研 究	19	78,600
基 盤 研 究（A）	1	2,900
基 盤 研 究（B）	42	153,400
基 盤 研 究（C）	217	264,700
挑 戦 的 萌 芽 研 究	48	59,300

研究種目	採択件数	金 額
若 手 研 究（A）	8	50,600
若 手 研 究（B）	95	107,100
研究成果公開促進費（データベース）	1	2,300
研 究 活 動 ス タ ー ト 支 援	11	11,300
奨 励 研 究	9	5,500
特 別 研 究 員 奨 励 費	2	2,100
計	453	737,800 (直接経費のみ)

その他の科学研究費補助金（平成25年度）

研究種目	件 数	金 額
第3次がん総合戦略研究事業	1	5,000
地域医療基盤開発推進研究事業	1	8,300
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	2	7,740
がん臨床研究事業	2	600
障害者対策総合研究事業	1	13,000
難治性疾患克服研究事業	11	10,540
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	2	3,650
認知症対策総合研究事業	2	2,000
慢性の痛み対策研究事業	1	500
長寿科学総合研究事業	2	1,500

研究種目	件 数	金 額
難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業（国際水準臨床研究分野）	1	70,000
創 業 基 盤 推 進 研 究 事 業	1	1,500
医療技術実用化総合研究事業（臨床研究・治験推進研究事業）	1	500
食品の安全確保推進研究事業	1	850
厚生労働科学特別研究事業	1	800
難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業	1	2,000
障害者対策総合研究事業（神経・筋疾患分野）	1	1,500
産業技術助成事業費助成金	2	4,700
先端研究助成基金助成金（最先端・次世代研究開発支援プログラム）	3	84,912
計	37	219,592

補助金等（平成25年度）

区 分	件 数	金 額
大学改革推進等補助金	4	58,499
研究拠点形成費等補助金	4	413,634
先導的創造科学技術開発費補助金	3	90,460
科学技術人材育成費補助金	4	251,826
若手研究者戦略的海外派遣事業費補助金	1	9,410
疾病予防対策事業等補助金	2	31,148
感染症指定医療機関運営費補助金	1	8,572
群馬県地域医療再生基金事業費補助金	2	364,331

区 分	件 数	金 額
臨床研究中核病院整備事業	1	493,733
群馬県遠隔医療施設費等補助金	1	820
群馬県災害医療対策事業費補助金	1	126
群馬県新人看護職員研修事業費補助金	1	1,820
群馬県産科医等育成・確保支援事業	1	1,340
群馬県在宅医療総合推進事業費補助金	1	100
救急患者退院コーディネート事業費補助金	1	3,241
計	28	1,729,061

寄附金（平成25年度）

区 分	件 数	金 額
計	2,012	1,560,636

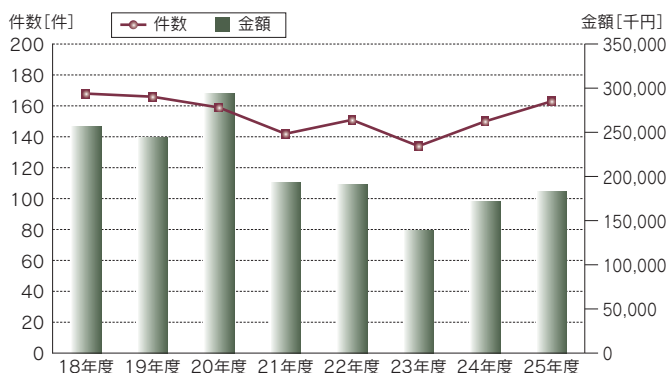
受託研究（平成25年度）

区 分	件 数	金 額
計	102	355,142

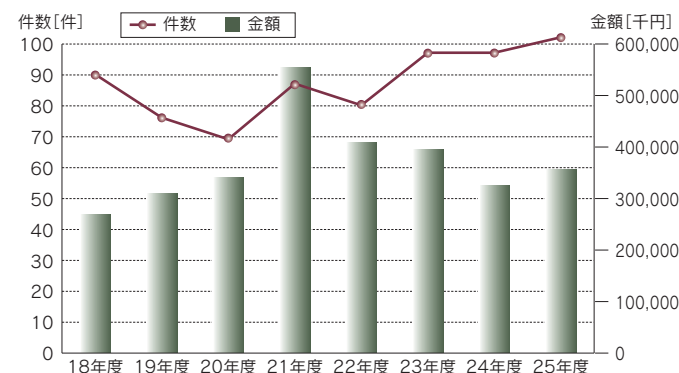
共同研究（平成25年度）

区 分	件 数	金 額
計	163	183,353

民間等との共同研究受入状況



民間等との受託研究受入状況



職員の数・土地・建物面積

職員の数

平成26年5月1日現在（人）

区 分	役 員	教 員							事務等 技術職員	合 計
		教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	教 論	養護教諭		
事 務 局	6								143	149
教 育 学 部		40	36	4			86	4	20	190
大 学 院 教 育 学 研 究 科		7	1	2						10
社 会 情 報 学 部		17	10			1			8	36
医 学 部									15	15
大 学 院 医 学 系 研 究 科		39	29	18	87					173
大 学 院 保 健 学 研 究 科		32	13	9	26					80
昭 和 地 区 事 務 部									148	148
理 工 学 部									58	58
大 学 院 理 工 学 府		69	73	2	44	1			1	190
生 体 調 節 研 究 所		9	8	1	14				4	36
総 合 情 報 メ デ ィ ア セ ン タ ー		1		1					4	6
教 育 基 盤 セ ン タ ー		1	4	2						7
学 生 支 援 セ ン タ ー		1								1
健 康 支 援 総 合 セ ン タ ー		1		1					1	3
研 究 ・ 産 学 連 携 戦 略 推 進 機 構		1	1	1					1	4
重 粒 子 線 医 学 推 進 機 構		1		1	9					11
国 際 教 育 ・ 研 究 セ ン タ ー			2	4						6
先 端 科 学 研 究 指 導 者 育 成 ユ ニ ッ ト			2	2	7					11
多 文 化 共 生 教 育 ・ 研 究 プ ロ ジ ェ ク ト 推 進 室				1						1
男 女 共 同 参 画 推 進 室				1						1
医 学 部 附 属 病 院			13	35	154				969	1,171
合 計	6	219	192	85	341	2	86	4	1,372	2,307

土地・建物面積

平成26年5月1日現在（単位：㎡）

地 区	部 局 等	土地面積	建物延面積
荒 牧 地 区	教 育 学 部 大 学 院 教 育 学 研 究 科 社 会 情 報 学 部 大 学 院 社 会 情 報 学 研 究 科 総 合 情 報 メ デ ィ ア セ ン タ ー 大 学 教 育 ・ 学 生 支 援 機 構 研 究 ・ 産 学 連 携 戦 略 推 進 機 構 国 際 教 育 ・ 研 究 セ ン タ ー 事 務 局 等	255,763	45,670
昭 和 地 区	医 学 部 大 学 院 医 学 系 研 究 科 大 学 院 保 健 学 研 究 科 医 学 部 附 属 病 院 生 体 調 節 研 究 所 重 粒 子 線 医 学 推 進 機 構 昭 和 地 区 事 務 部 等	161,631	(581) 178,048
若 宮 地 区	教 育 学 部 附 属 幼 稚 園 教 育 学 部 附 属 小 学 校 教 育 学 部 附 属 特 別 支 援 学 校	37,990	13,480
上 沖 地 区	教 育 学 部 附 属 中 学 校	37,430	6,388
桐 生 地 区	理 工 学 部	103,021	68,007
太 田 地 区	大 学 院 理 工 学 府	(8,696)	(4,561)
その他の地区 (前橋市、桐生市、草津町、渋川市、長野原町)	学 生 寄 宿 舎 教 職 員 宿 舎 等 草 津 共 同 利 用 研 修 施 設 所 伊 香 保 研 修 所 北 軽 井 沢 研 修 所	(12,084) 36,199	18,945
合 計		(20,780) 632,034	(5,142) 330,538

※（ ）内の数字は借用面積で外数。

学部等所在地

符号	部局等の名称		所 在 地	電 話
A	事務局	総 務 部	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7005 (総務係)
		財 務 部		(027)220-7044 (総務・監査係)
		学 務 部		(027)220-7125 (総務係)
		研 究 推 進 部		(027)220-7512 (総括係)
		施 設 運 営 部		(027)220-7084 (企画・総務係)
	荒 牧 地 区 環 境 美 化 室			(027)220-7017
	教 育 学 部			(027)220-7204 (総務係)
	〃 附属学校教育臨床総合センター			
	〃 附 属 幼 稚 園		〒371-0032 前橋市若宮町2-5-3	(027)231-3170
	〃 附 属 小 学 校		〒371-0032 前橋市若宮町2-8-1	(027)231-2804 (代)
	〃 附 属 中 学 校		〒371-0052 前橋市上沖町612	(027)231-3023 (代)
	〃 附 属 特 別 支 援 学 校		〒371-0032 前橋市若宮町2-8-1	(027)232-9758
	大 学 院 教 育 学 研 究 科		〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7204 (総務係)
	社 会 情 報 学 部		〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7403 (総務係)
	大学院社会情報学研究科			
	医 学 部			(027)220-7111 (代)
	大 学 院 医 学 系 研 究 科			
	〃 附属生物資源センター		〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	
	〃 附属薬剤耐性菌実験施設			
	〃 附属教育研究支援センター			
	〃 附属医学教育センター			
	大 学 院 保 健 学 研 究 科			
	〃 附属保健学研究・教育センター		〒371-8514 前橋市昭和町3-39-22	
	多 職 種 連 携 教 育 研 究 研 修 セ ン タ ー		〒371-8511 前橋市昭和町3-39-15	
B	理 工 学 部		桐生キャンパス 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)
	大 学 院 理 工 学 府		太田キャンパス 〒373-0057 太田市本町29-1	
F	理工学府附属ケイ素科学 国際教育研究センター			(0276)50-2231 (代)
A	生 体 調 節 研 究 所		〒371-8512 前橋市昭和町3-39-15	(027)220-7111 (代)
	〃 附属生体情報ゲノム リ ソ ー ス セ ン タ ー			
	〃 附属代謝シグナル 研 究 展 開 セ ン タ ー			
	〃 附属生体情報シグナル 研 究 セ ン タ ー			
	総合情報メディアセンター 中 央 図 書 館		〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7170 (情報企画係)

符号	部局等の名称	所 在 地	電 話	
A	〃 情 報 基 盤 部 門	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7111 (代)	
	〃 医 学 図 書 館	〒371-8513 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7111 (代)	
	〃 情報基盤部門昭和分室	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22		
B	〃 理 工 学 図 書 館	〒376-8516 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)	
	〃 情報基盤部門桐生分室			
A	大学教育・学生支援機構 教 育 基 盤 セ ン タ ー		(027)220-7123	
	〃 学 生 支 援 セ ン タ ー		(027)220-7136	
	〃 学 生 受 入 セ ン タ ー	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7149	
	〃 健康支援総合センター		(027)220-7163	
	研究・産学連携戦略推進機構 研 究 戦 略 室		(027)220-7111 (代)	
	B	〃 産学連携・知的財産戦略室		
		〃 産学連携・共同研究イノベーションセンター		
〃 群 馬 大 学 T L O		〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)	
〃 高度人材育成センター				
〃 インキュベーションセンター				
〃 機 器 分 析 セ ン タ ー				
A		重粒子線医学推進機構 重粒子線医学研究センター	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7111 (代)
	〃 重粒子線医学センター	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-15		
	国際教育・研究センター		(027)220-7628	
	多文化共生教育・ 研究プロジェクト推進室			
	先 端 科 学 研 究 指 導 者 育 成 ユ ニ ッ ト	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7111 (代)	
	未 来 先 端 研 究 機 構			
	男 女 共 同 参 画 推 進 室			
C	伊 香 保 研 修 所	〒377-0102 渋川市伊香保町 伊香保字香湯14-1	(0279)72-4605	
D	草津共同利用研修施設	〒377-1711 吾妻郡草津町草津字白根737	(0279)88-2212	
E	北 軽 井 沢 研 修 所	〒377-1412 吾妻郡長野原町北軽井沢 字南木山大楢2032-242	(0279)84-2273	



建物配置図

荒牧地区 【所在地：前橋市荒牧町4-2】



教育学部



社会情報学部



自主自律の森（憩いの広場）



- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| ① 教育学部
学校教育臨床総合センター | ⑬ 社会情報学部 |
| ② 多文化共生教育・研究プロジェクト推進室 | ⑭ 学生センター（教養教育GA棟）
大学教育・学生支援機構 |
| ③ 総合情報メディアセンター
（中央図書館／情報基盤部門） | ⑮ 教養教育GB棟・GC棟 |
| ④ 総合情報メディアセンター
（情報基盤部門荒牧センター） | ⑯ 教養大講堂 |
| ⑤ 教職員等宿舎 | ⑰ 体育館・武道館 |
| ⑥ 基幹棟 | ⑱ 大学会館「アザレア」
ミューズホール |
| ⑦ 健康支援総合センター | ⑲ 国際教育・研究センター |
| ⑧ 荒牧地区環境美化室 | ⑳ キャリアサポート室 |
| ⑨ 電話交換室 | ㉑ 体育管理施設 |
| ⑩ 倉庫 | ㉒ 課外活動共用施設 |
| ⑪ 事務局
研究・産学連携戦略推進機構 | ㉓ 合宿研修施設 |
| ⑫ 守衛所 | ㉔ 憩いの広場 |
| | ㉕ 中央モール |
| | ㉖ 遊歩道 |

昭和地区

【所在地①：前橋市昭和町3-39-15（医学部附属病院ほか）】

【所在地②：前橋市昭和町3-39-22（医学部・生体調節研究所ほか）】



生体調節研究所



医学部保健学科



医学部附属病院



医学図書館

- | | |
|----------------------|------------------------------------|
| ① 医学部保健学科 | ①⑨ 診療棟1 |
| ② 福利施設 | ②⑩ 診療棟3 |
| ③ 看護師宿舍 | ③⑪ 病院基幹棟 |
| ④ 中央機械室 | ④⑫ 診療棟2 |
| ⑤ 生体調節研究所 | ⑤⑬ 北病棟 |
| 代謝シグナル研究展開センター | ⑥⑭ 南病棟 |
| 生体情報シグナル研究センター | ⑦⑮ 外来診療棟 |
| ⑥ RI研究棟 | ⑧⑯ 課外活動施設、体育館 |
| ⑦ 特別高圧受変電室 | ⑨⑰ プロジェクト棟（1F：石井ホール） |
| ⑧ 生体情報ゲノムリソースセンター | ⑩⑱ 中央診療棟 |
| ⑨ 生物資源センター（1） | ⑪⑲ 総合情報メディアセンター情報基盤部門昭和分室（医学図書館1F） |
| ⑩ 生物資源センター（2） | ⑫⑳ 立体駐車場 |
| ⑪ 医学部（臨床棟）（1F：黒梅ホール） | ⑬㉑ 重粒子線照射施設（重粒子線医学研究センター） |
| ⑫ 医学部（基礎棟） | ⑭㉒ 保育所（ゆめのご保育園） |
| ⑬ 基礎講義棟 | ⑮㉓ アメニティモール |
| ⑭ 刀城会館（記念会館） | ⑯㉔ 東棟 |
| ⑮ 総合情報メディアセンター医学図書館 | ⑰㉕ 発電機室 |
| ⑯ 共用施設棟 | ⑱㉖ 立体駐車場 |
| ⑰ 臨床講義棟 | |
| ⑱ 特別診療棟 | |

桐生地区 【所在地：桐生市天神町1-5-1】



理工学図書館



総合研究棟



同窓記念会館

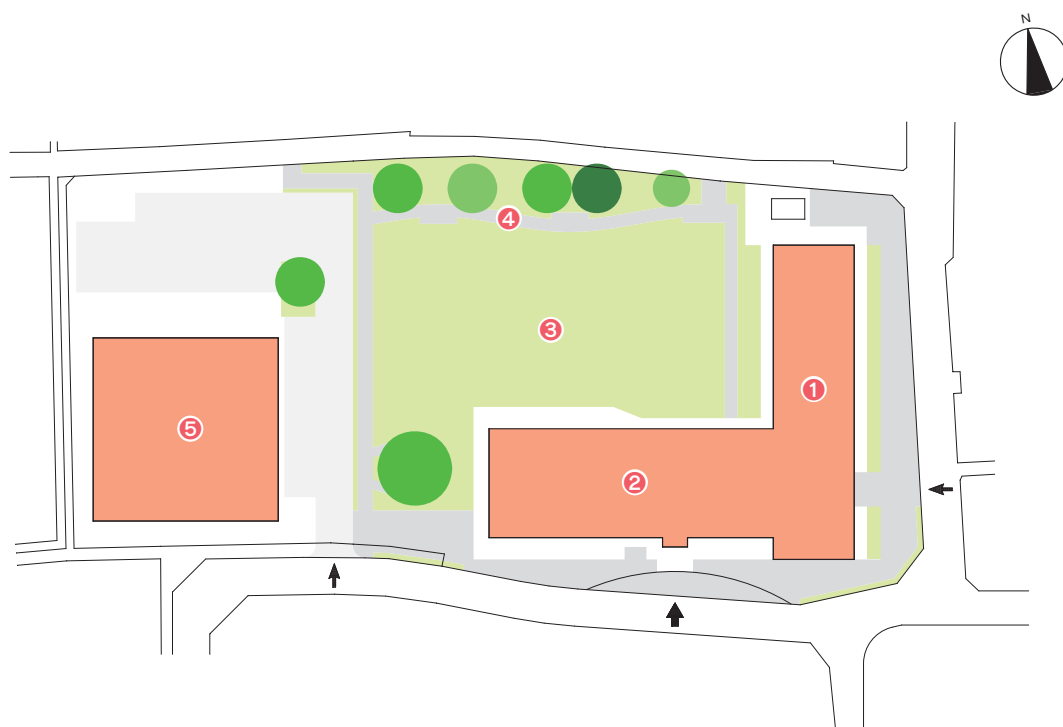


同窓記念会館（内部）



- ① 産学連携・共同研究イノベーションセンター
- ② 高度人材育成センター
- ③ 同窓記念会館
- ④ 車庫
- ⑤ 工学部会館
- ⑥ 環境保全支援センター
- ⑦ 7号館
- ⑧ 実験棟
- ⑨ 1号館
- ⑩ 理工学基盤部門
- ⑪ 講義棟
- ⑫ 4号館
- ⑬ 5号館
- ⑭ インキュベーションセンター群馬大学TLO
- ⑮ 総合情報メディアセンター理工学図書館
- ⑯ プロジェクト棟
- ⑰ 電子計算機棟

- ⑱ 6号館
- ⑲ 2号館
- ⑳ 基幹棟
- ㉑ 3号館
- ㉒ 8号館
- ㉓ 危険薬品庫
- ㉔ 特別実験棟
- ㉕ RI実験施設 1,2
- ㉖ 原動機棟
- ㉗ 研究推進支援センター
- ㉘ 医理工共用研究棟
- ㉙ 体育館
- ㉚ 合宿所
- ㉛ 課外活動施設
- ㉜ 総合研究棟
- ㉝ 機器分析センター
- ㉞ 総合情報メディアセンター情報基盤部門桐生分室



太田キャンパス概観

- ① 大学院研究棟
- ② 産学研究棟
- ③ 交流広場
- ④ 散策路
- ⑤ ものづくりイノベーションセンター



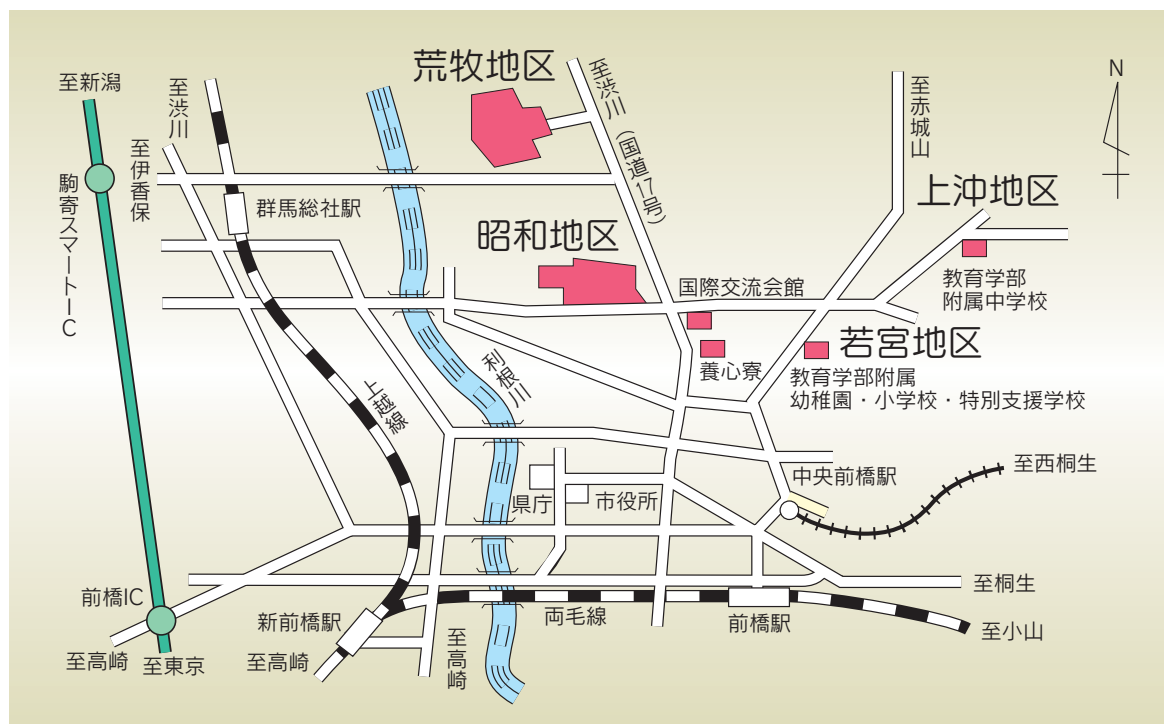
CAD（コンピュータ支援設計）ルーム



機械工作室

交通アクセス

荒牧・昭和・若宮・上沖地区



荒牧地区

JR

JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ8Km

JR上越線・吾妻線にて新前橋駅下車、北方へ8.4Km

バス

JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）

- ・群馬大学荒牧経由 渋川市内循環渋川駅行、小児医療センター行「群馬大学荒牧」下車（所要時間約28分）

- ・渋川駅行、渋川市内循環渋川駅行

「前橋自動車教習所前」下車（所要時間約25分＋徒歩10分）

JR新前橋駅東口乗り場（関越交通バス）

- ・群大病院・群馬大学荒牧経由 総合スポーツセンター行、群大病院経由 群馬大学荒牧行、群馬大学荒牧行「群馬大学荒牧」下車（所要時間約32分）

昭和地区

JR

JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ4Km

JR上越線・吾妻線にて新前橋駅下車、北方へ5.1Km

バス

JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）

- ・群大病院行・群大病院経由 南橋団地行「群大病院」下車（所要時間約15分）

JR前橋駅北口3番乗り場（日本中央バス）

- ・群馬総社駅行「群大病院」下車（所要時間約15分）

JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）

- ・群馬大学荒牧経由 渋川駅行、群馬大学荒牧経由 渋川市内循環渋川駅行、渋川市内循環渋川駅行、小児医療センター行「群大病院入口」下車（所要時間約13分＋徒歩6分）

JR新前橋駅東口乗り場（関越交通バス）

- ・群大病院・群馬大学荒牧経由 総合スポーツセンター行、群大病院経由 群馬大学荒牧行

「群大病院」下車（所要時間約21分）

- ・総合スポーツセンター行、群馬大学荒牧行

「群大病院入口」下車（所要時間約17分＋徒歩6分）

若宮地区

■ JR

JR 両毛線にて前橋駅下車、北方へ2Km

■ バス

JR 前橋駅北口3番乗り場

- ・ 総合スポーツセンター方面行、湯の道利久行、群馬総社駅行「附属小前」下車（所要時間約5分）（日本中央バス）

JR 前橋駅北口6番乗り場

- ・ 富士見温泉行「附属小前」下車（所要時間約5分）（関越交通バス・日本中央バス）
- ・ 国立赤城青少年交流の家行「附属小前」下車（所要時間約5分）（関越交通バス）
- ・ 嶺公園行、小坂子行、荻窪公園行「附属小前」下車（所要時間約5分）（永井バス）

上沖地区

■ JR

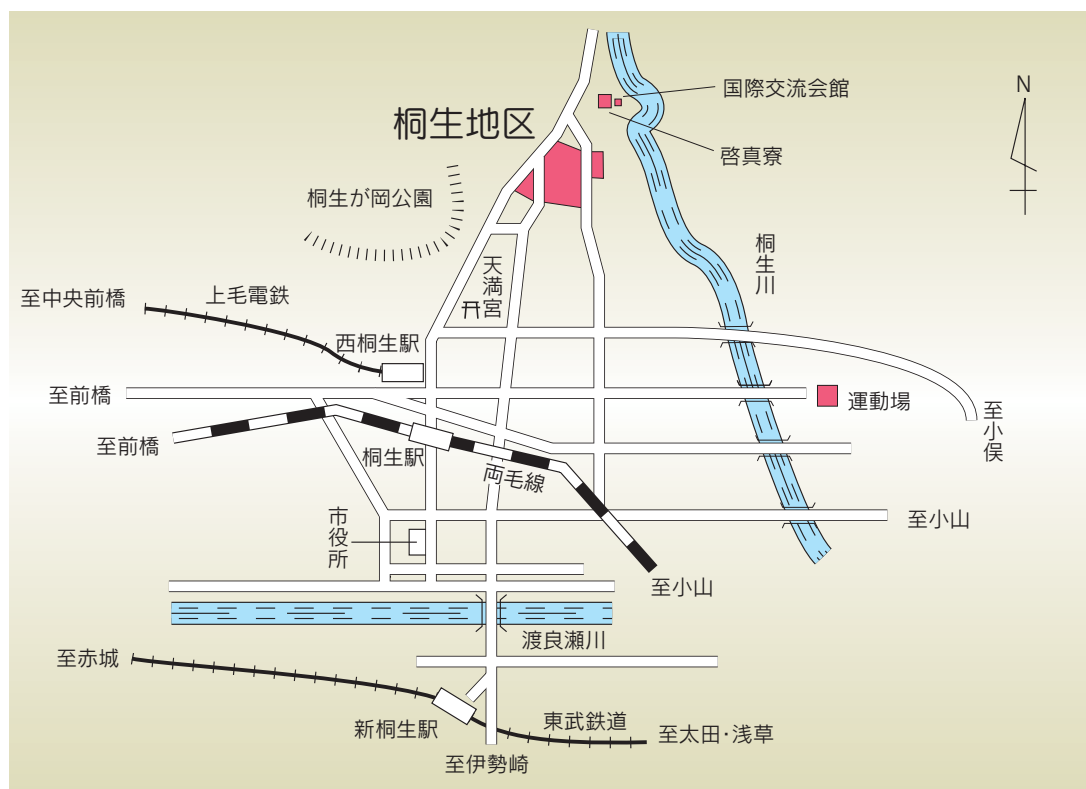
JR 両毛線にて前橋駅下車、北方へ4Km

■ バス

JR 前橋駅北口6番乗り場

- ・ 富士見温泉行「北代田」下車（所要時間約9分+徒歩15分）（関越交通バス）
- ・ 嶺公園行「県営住宅前」下車（所要時間約11分+徒歩10分）（永井バス）

桐生地区



桐生地区

■ JR

JR 両毛線にて桐生駅下車、北方へ2.5Km

東武桐生線にて新桐生駅下車、北方へ4.1Km

■ バス

JR 桐生駅北口乗り場（おりひめバス）

- ・ 梅田行「群馬大学工学部正門前」下車（所要時間約7分）
- ・ 菱線右循環「群馬大学工学部正門前」下車（所要時間約7分）

新桐生駅乗り場（おりひめバス）

- ・ 桐生女子高行「群馬大学工学部正門前」下車（所要時間約15分）

太田地区



太田地区

- 東武鉄道太田駅北口下車、徒歩約10分（市立太田小学校となり）
- 北関東自動車道 太田桐生ICから約10分



国立大学法人群馬大学徽章

昭和24年10月1日制定

周囲は群馬県の象徴である名勝赤城、榛名、妙義の上毛三山を浮彫りさせて大学を囲み、群馬大学の象徴としています。



国立大学法人群馬大学ロゴマーク

平成18年4月1日制定

群馬大学の英頭文字「G」をモチーフに緑と青で豊かな自然環境を示し、学生の成長と活躍をイメージして、新しい未来への創造と、社会へ貢献する大学の存在感を表現しています。

「あ あ 建 学 の」

■詞：梶田 一之 ■曲：相沢 聡 ■編曲：塚本 靖彦

1. たからかに果てなく響く歌声は
青春の歡喜の調べ
山あをく水きよら
ああ秀麗の国土とあかるく
わが希望かがやく姿よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑

2. たくましく生気に充つる歌声は
青春の至情の調べ
血はたぎり 胸をどり
ああ将来の文化をきずくと
わが理想もえたつ思いよ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑

3. とうとうと^{だい ち}大地をゆする歌声は
青春の叡智の調べ
^{たま}魂さやか ^{しん}眉さとく
ああ^{しん おう}深奥の真理をみつむる
わが決意ゆるがぬ心よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑

4. すこやかに若やぎはづむ歌声は
青春の^{いのち}生命の調べ
^{あけ}暁しるし陽はいでて
ああ建学の理念のみちびく
わが前途あふるる光よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑



認証評価認定マーク

平成22年3月29日認定

独立行政法人大学評価・学位授与機構による平成21年度実施の大学機関別認証評価において、「本学は、大学設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている」と評価されました。



ISO 14001認証マーク

平成19年1月20日取得

中期計画においてISO 14001の認証取得の方針が示され、教職員・学生が一体となって環境対策への取り組みを推進しており、荒牧キャンパスが環境マネジメントシステムの国際規格を取得しました。



発行日

平成26年6月発行

編集

国立大学法人群馬大学総務部総務課広報係

〒371-8510 前橋市荒牧町四丁目2番地

TEL.027-220-7010 (7011) FAX.027-220-7012

URL:<http://www.gunma-u.ac.jp>



リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



EMS 513365/ISO 14001 : 2004